

昭和四十年十二月十七日招集(牙二号)  
第四回市議定会定例会會議録



館山市議会第四回定例会会議録(第三号)

昭和四十年十二月招集

十二月十七日(金曜日)

一 議事日程(第二号)

第一 請願書

第二 通告質問

議案第七十号

昭和三十九年度館山市一般会計歳入歳出  
決算の認定について

議案第七十一号

昭和三十九年度館山市公益質屋特別会計  
歳入歳出決算の認定について

議案第七十二号

昭和三十九年度館山市健康保険特別会計  
歳入歳出決算の認定について

議案第七十三号

昭和三十九年度館山市と畜場特別会計  
歳入歳出決算の認定について

第三

議案第七十四号

昭和三十九年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第七十五号

昭和三十九年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第七十六号

昭和三十九年度館山市館山ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第七十七号

昭和三十九年度館山市上水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第四

議案第七十八号

あらたに生じた土地の確認について  
あらたに生じた土地を市の区域内に編入することについて

第五

議案第八十号

館山市と畜場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第六

議案第八十一号

館山市青羊館の設置及び管理に関する



条例の制定について

第七議案第八十二号

館山市印鑑条例の一部を改正する条例

制定について

第八議案第八十三号

昭和四十年十二月に支給する期末手当

特別に關する条例の制定について

第九議案第八十四号

昭和四十年年度館山市一般会計補正予算

議案第八十五号

昭和四十年年度館山市国民健康保険特別  
会計補正予算

第一〇議案第八十六号

昭和四十年年度館山市之畜場特別会計  
補正予算

議案第八十七号

昭和四十年年度館山市休養施設特別会計  
補正予算

午前十一時三十五分開議

議長(田中祿郎君)本日、出席議員数二十九名。

二、(より)第四回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

本日、議事はお手元に配付の日程表により行ないます。  
日程第一、公共料金反対に関する請願書を議題といたします。

朗読いたします。

(書記朗読)

(二四番議員登壇) (拍手)

二四番(島野茂樹郎君)公共料金値上げ反対に関する  
請願書。紹介議員といたしまして、この請願書の  
趣旨を今一度御説明申し上げて、みなさんの方  
御賛同を得て、満場一致で採択をしていただきた  
い。かように存するわけであります。

請願の趣旨を簡単に申し上げますと、鉄道運賃  
その他公共料金、値上げというものが、ここに来て  
次々に政府より、或いはそういう機関から予定といま  
しうか。そういうことが発表されてゐる。公共料金が値  
上りますと、その関連産業の物価が必然的に上り  
ます。回わり回わつて私たちの消費者物価というも  
のに回わつてくる。従つてこの公共料金の値上げは  
私たちの生活を破壊するような恐れを持つてゐるわけ  
であります。

従つてこの公共料金の値上げには反対せざるを  
得ない。政府はこの物価安定施策というものを  
こゝように打ち出してゐたのだといふことが、請願の趣旨  
であるわけでございます。

統計によりますと、今年の消費者物価の値上げは、指

数は三十九年度に比へまして、おそろく八%乃至九%の値  
上りになるであらうというふうに言われております。

本年度勤労者といひますか、特にその中の國家公務員  
の賃金が上った率は觀告によりましても、五・九%す  
なわち、國家公務員だけを例に取つてみましても、賃  
金の上昇は物価の上昇にも及ばぬという結果が出て  
おります。

従いまして、私たちが勤労者の生活、こゝは、年々切り下げ  
られてゐるということが、言えるわけであります。

今年、一月に米が確か一四・八%値上げをいたしました。  
そのことが中心になつて、新年度の物価の上昇ということに  
響いてゐるということが言えると思ひます。

しかも、それが来年はさらに米価が八・六%の値上げ、そ  
れに続いて私鉄大手が二・三%、国鉄は、約三・〇%程

便料金も二五％、電信電話料金、或いは東京都において水道料金、或いは国保料金、こういうようなことが、公共料金が軒並み値上げをするというプランが、出ております。

私どもは、来年度の春から次々実施される公共料金や値上げというものを考えたときに、諸物価の値上げというものは、当然誘発されるであろう。消費者物価も大幅に上昇するのであるということを疑わないわけであり、さうに私ども、勤労者の生活水準というものは一段と引き下げられるという結果になることは大まゆるすりも明らかであります。

私も先般街頭におきまして署名を呼びかけて或いは、して下さった方、その場におきまして、いろいろのことを聞いてたわけであり、すけれども、まず、百人が百人という

いゝほど物価値上げについては反対をいちております。  
こゝままでは私どもの生活はなおさう若くなる。めん  
ながかように身をもつて考えていゝというふうに私どもは見  
受けなわけであります。ですから、ここで私たちの生活の  
安定というものを願つて生活の向上を考えていくとき  
にどうしても物価の安定というものを考えなければなら  
ぬ。物価の安定が絶対に必要である。こゝように考えま  
して物価の上昇の牽引車となる公共料金値上げ  
を絶対に私どもは許すわけには行かないという気がす  
るわけであります。

どうしても公共料金値上げには反対せざるを得ない  
というふうに考えます。

従いまして政府はこゝ公共料金値上げというものをさまず  
よく私どもが声を聞いでもう一度考えなおしていただ

く、そうしてすみやかに物価安定策を確立して私ども  
の生活不安というものをなくしてほしい。こういうふうに考  
えるわけでございます。

満場のみなさん方、御賛同を得て御採決いただくこと  
を心から念願いたしまして、私、説明を終りたいと思ひ  
ます。  
(拍手)

議長(田中祿郎君) 御質疑はございせんか。御質疑  
なしと認めます。

本請願書を採決いたしますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって採決と  
決まらな。

おはかりいたします。ただ今、西村真次君ほか五議  
員君から公共料金値上げに関する意見書案が提案



つきました。

この際、この日程に追加。ただちに議題といたしたいと思つきます。この御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よつて日程は追加されました。

公共料金値上げに関する意見見書案を議題といたします。  
西村真次君。

(一八番議員登壇) (拍手)

一八番(西村真次君) 起草委員を代表いたしまして、僭越であります。作成された意見見書案を朗読いたします。

公共料金値上げに関する意見見書案。

政府は本年に引き続き来年一月から米価値上げを

発表し、さらに国鉄運賃を始めとし、私鉄運賃、郵便料金、電報電話料金、水道料金、保険料等、公共料金を一律に値上げを予定しております。一般消費物価においても、累次増高の一途をたどり、国民生活に大きな脅威と不安を与える結果となっております。

この際、政府は諸般の実情を勘案し、公共料金値上げについては、根本的検討を加え、物価の安定と公共料金値上げの抑制策に万全の措置を講ぜらうと、よう要望します。

ここに地方自治法第九十九条第二項により、意見見書と提出します。

昭和四十年十二月十七日 館山市議会議長 田中祿郎  
 発議者 吉田勇治郎 西村真次 石井正

関 武夫 保科中 夫 島野茂樹郎 以上より  
あります。

なにとぞ、みなさん御賛同をお願いいたします。(拍手)  
議長(田中祿郎君) 本意見書は原案通り決定いたします  
ことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって決定  
いたします。

ただちに議長より、関係機関に送付いたしますことと  
いたします。

意見書案は時間都合で印刷が間に合いませんので後  
刻配付いたします。

日程第二、通告による行政一般質問を行います。

通告の順序により九番議員、安西益男君。

(九番義員 登壇)

九番(安西益男君) 二点につきましてお伺いしたいと思います。最初一点についてであります。遊病舎、そうしてまた一部旧海軍官舎の住宅が非常に危険な状態にある。この点につきまして改修、或いは適切な処置を願いたい。この点についてお願ひをいたすわけです。

御承知の如く現在遊病舎と呼ばれております建物が、那古に一カ所、船形に一カ所あるわけであります。

特に那古におきます建物の点につきましては、その老朽化、状態は非常に危険なまことにはなはだしいものがある。例えば家の中から外が見えるというふうに全く一軍中夏、状態だ。そういう状況に置かれておる。なおまたいまもって、電灯も付いていない。そういうような現状にありまして、早急に適切な処置を願いたい。このよ

うに思つてございます。

また船形の点につきましては、これは今うち修理を加えたならば、今一ぱうくは持つてはないか、かように考えております。

なおまた旧海軍に官舎について、これも、相当な危険状態にある。これも等しくやはり市民である以上は早く適切な御処置を願いたい。こう願うものであります。次々二点についてでございますが、福祉保護家庭に対する扱いについて、これもつきまゝでは、担当取負の能力度、或いは資格についてということでもあります。が、生活保護を受けてゐる人たちは、決して甘んじてこの保護を受けてゐるというわけではない。でありまして、万々むを得なく、このような事情に置かれてゐるものが現状であります。こゝから保護者に対して、恩恵的な態度でござんたり

単に事務的な機械的な態度でのごんでは断じて  
ならない。かように思うのでございます。

かやうの良き相談相手となるその立場を尊重して血  
の通った通用こそ認養である。

一部担当取員にまことに残念と思わゆる行為が見受けら  
れますので、今後十分監督・御指導を切に願いたい  
ことを点につままして伺いたい。よろしく願っています。

(市長登壇)

市長(本間 康君) 安西議員さんの質問に対しましてお  
答えいたします。

えう、隔離病舎並びに海軍官舎を住宅に使用して、  
おる方々が家がこわいて非常に困つておる。こういうふう  
なことでござりますが、二点につきまして、市としてま  
よく調べまして御質問の趣旨にそうように努めて参

りないと考えております。

それから市営住宅の入居につきまゝでは、御質問でない  
ようでございますが、それはよろしいですわ。

・九番(安西益男君)現在、船形の避病舎に七世帯か八世  
帯の方があられるわけでございしますが、この方たちを一応優先  
的に新しくできまゝの住宅にござせん願えば、そのあとに  
できれば、現在、那古の寮に四世帯ある。この人たちが、  
早急にその方に移動するという方向を取っていくならば、  
速やかに処置が取れるのではないか。このように思うわけで  
すが、

・市長(本間譲君)市営住宅の入居につきまゝでは、市営  
住宅は御承知のやうに国の補助を受けて、市も金を出  
して建設してあるわけでございまして、そういう関係から  
しまゝいろいろな制約があるわけですね。ですから、それを

優先してすぐに入居させるといふわけにもいきませんが、  
 この間、十月四日付で千葉財務部長から單々建物と  
 入つてゐる方々を優先して入けてもらいたいといふお話が  
 あつたわけでございますが、こゝういふことも十分考えてやつて  
 参りたいと思ひますけれども、やはり、こゝういふ方々は市や  
 住宅の公募の際に正式に申し込んでもらうことがまず  
 必要なわけでございまして、正式にまだ申し込まなかつた方  
 もおるぞうでございますから、申し込んでいろいろなことな  
 考慮してやつて参りたいといふふうに考えておるわけでござ  
 いますけれども、根本的にはやはり公営住宅法という  
 規則に従ひましてやることでございしますが、その範囲内  
 においてできるだけ優先してゐるようにな委員会ですから、そ  
 ういふ方々と相談して参りたいと考えておるわけで  
 ございます。



それから次の問題は福祉家庭に明かるといふ希望を特に担当職員が資格と能力度についてということであり、生活保護の実施に当たっては、生活保護法並びに実施要綱に従って保護を行なっているわけでございますが、被保護者に対しては、常に暖かい思いやりで指導していくように私の方からも指示してあるわけでございます。本市の保護係は六名で係長一名、庶務一名、ケースワーカー四人一人で七十世帯乃至九十世帯受け持っております。まして四人とも社会福祉主事の資格を持っております。被保護者の応接に当たっては、常に細心の配慮を払って自立更正の指導に当たっておりますわけでございます。なお、いっそう暖かい気持ちで接するように努めて参りたいと考えております。

九番(安西益男君)ただ今、市長さん、御説明によりまして

優先的に考えておる。こゝのようなことでありまゝなんです。が、やはり先ほど申し上げましたように、那右の四世帯の方々が住まうてゐる建物、これはもう非常に危険な状態。例えばいつ台風がくるかわからない。少し強い台風でも、ゆまわたりたりと、ひとにまきりもなく倒壊していく。そういう状態にあるというのか、現状でありまゝで、世帯数にいても、四世帯であります。で、何にいても、人命を尊重していくという面からいへば、この点を十分考慮さし、まゝで、速やかに御処置願ひたい。こゝようにお願いする次第であります。

次、福祉関係の件であります。十分監督指導なされておるといふことは、認めらるゝ点も多々ありますが、一かーながら一部非常に残念に思う面も、かす多々、担当してゐる関係もありまゝ。うー、いろいろ事務的

な煩瑣な点もあると思いますが、特に物心に非常に不安定  
の人たちでありますので特に精神的な心のささえ、或い  
は心からの相談相手というような立場で今後いつそう明  
かるい希望も持てるそういった御指導をお願いしたい。  
このような切望いたしまして、終りたいと思います。

議長(田中稔郎君) 一〇番議員 辻田実君、御登壇一  
願います。

(一〇番議員 登壇) (拍手)

一〇番(辻田実君) 私はここで議会民主主義と都市計画  
について主として御質問申し上げるに、市営住宅の  
入居問題について御質問申し上げたいと思うのであり  
ます。

議会民主主義について特に市当局の見解を正し、い  
けでございすけれども、その第一は、最近非常に館

山市におきましては、委員会が設置され、また審議会  
 というものが非常に多くできてゐる。こゝらは、ほとんど公務  
 員法第三條二項、並びに三項に該当する委員会並  
 びに審議会が多いわけでございます。こゝらも、こゝらに  
 委員会並びに審議会が二、三ではなくて、私が数えたところ  
 ざつと二十を越える状態であるわけでありまして、こゝら  
 傾向がとみに最近、やうなところでございます。  
 二番目にこの委員会なり審議会に選ばれてゐるところ、委  
 員の人たちが片寄つてゐる。すなわち一定の人が幾つも  
 兼務してゐるという状況が、はなはだしくみられるといふこ  
 とでございます。

そこで質問書の中にも書いてございまして、ようにならざる  
 的な存在。人たちがこゝらに私は申し述べておしま  
 すけれども、私はこゝらに言葉を使つたのは、先ほども

申し上げましたところ、地方公務員法第三条二項並びに三項に該当する公共団体、社会教育団体、さらには福祉団体に所属する委員並びに審議会や役員を私は五つ以上兼務している人をさして有力者の存在の人だということを私は申し述べたのでございます。

さらに、こういう傾向が非常にあるということを私は非常に深く感得しているわけでございます。

第三番目に、こういう委員会なり審議会において当然に議決において審議されるべき重要な問題が審議されまた諮問されておるということでございます。

私は委員会なり審議会において重要な問題が審議されることは一向かまわないと思うのでございするけれども、二つ、審議の過程、内容が議会並びに議会、委員会に対してほとんど連絡なく、関係なく審議されておると

いうことです。そうして、その結果が多く、もうが直接、本会議に予算として現わたり、条例改正として現わたり、提案されてくるという傾向がかなりあるということでございます。

以上申し上げましたところの三つの点について、私はこのまま、このようない状態で進んで参りますと、非常に議会民主主義というものを破壊する傾向に何かつていくのではないかと、このことを憂えて質問申し上げるわけでございす。と申しますのは、議会民主主義というものは、やはり市民を代表して選ばれてきたところの議員によって、市民のいろいろな要求を特に政治的な要、課題を審議して、これを法律化し、条例化し、そうして、市当局において、この議会が決議に基いたものを施行していくというのが、今日の議会民主主義であり、三権分立の

原則であるわけであります。それにもかかわらず、そういう  
市民的な重要な問題を委員会なり審議会なりに付  
託して、当然審議するべき議会並びに各常任委員会  
の審議というものがかなりおろそかにさへつあるという  
ことについて私は、今後市当局は改めていく意思がある  
あるのかどうか、お伺いしたいわけでございます。

その点については申すまでもなく、市当局におきましては、  
十分配慮しながら行なっているものと思っております。けれども  
一かーながら私が議員になりましてから三年を迎える  
わけでございますが、その間においてそういう点について  
非常に疑問を感じておるわけでございます。今申し  
上げました三つの点について疑問を持っていないのかどう  
かということについて質問したいわけでございます。

また私は市当局が議会民主主義というものを尊重

して育成していく気があるならば、先行的な議会民主主義の発達しておるところへ行なわいておるやうに、むしろ私は委員会なり、審議会というやうな性質のもうは各議会や常任員員会や公聴会として、そういう学識経験者なり専門家を招聘して、その中で意見を開いて、そうしてその意見に基いて、各常任委員会において結論を出し、討議を進めていくというが、私は本来の姿ではないかと思っております。そういう面におきましては、各委員会におきますところの公聴会や参考人の発言、招聘というものは、みらるんですが、全く議会と切り離してゐる。

このことは私は決していいことであるというふうには感じておらないわけなんです。が、市当局におきましては、こういう傾向が、いゝだという言葉の感に受け



られるわけでございます。二の点について、今後やはり、議会民主主義を育成するという意向があるんで、議院内におきますところの委員会、強化、さらには議会内におきますところの公聴会、さらには、参考人の招聘による審議を充実さしていく意思があるのか。この点について、まずお伺いしたいわけでございます。

三の点に立ちまゐりて、私は三つの点について、具体的な問題を質問いたしたいわけでございます。

その第一が中学校の統合問題でございます。

先般来新聞等でみますると、中学校統合審議会というものが設置さいるということが報道されております。事実、できておるそうでございますけれども、この審議会におきます中心的な課題が中学校の統合として現在ある七つの中学校を三校に統合していくという。

三、いう基本的な態度で審議会が発足しているという  
 ことを伺っておりまして、この点については、やはり七校を  
 三校にするという前提の中でもって審議会に諮問  
 されておるということを私は事務当局から聞いておるわ  
 けでございます。

この点について私は御質問ないわけでございます。

そこで第二番目に市勢振興調査をみますると市勢  
 振興調査の中にはっきりと現在ある七校の中学校で  
 は、館山市の人口増加が行なわれていく際にはどう  
 しても不足する。特に市街地におきまして二校乃至三  
 校程度の増加をしなければ十萬都市になったとき  
 中学校の生徒を収容することが困難になるという  
 点をはっきりと指摘されておるわけでございます。

市長、中心的なスローガンといないまして、十萬都市実

現ということを言わねております。私どもも、その線にぞう  
て、勘かておるわけでございしまするけれども、十萬都市  
を標榜してゐる中において、現実の問題として、中学校を  
校から三校に減らして、まゑは、館山の人口が三萬乃至  
四萬に減つていくということを前提としたところ、教育課  
題というものが、討議されておるといふうにかみられ  
ないわけでございます。

この点は、教育委員会並びに市当局、十分なる連絡があ  
るかと思ふわけでございしまするけれども、市民的な立場  
からみておりますると、非常にこつけいになるわけでござ  
います。この点について、どうしようにお考えになつておるか  
お伺ひたいわけでございます。特に教育委員会で  
打ちあつておるところ、一中学校の適正規模、これは、  
文部省も同様でございしまするけれども、十二学級乃

至十八學級がもつともよろしい。こゝ學級において一校が成立することが教育内容の充実、教育課程の問題にいてもいいということが言われておるわけでございます。こゝに面から十萬都市というものを前提として、中学校の問題を考えるときに七校を三校に減らす議論の根拠を私はお伺いしたいわけでございます。

まして、中学校の統合計画というものが十年計画であるということであるわけでございます。こゝ一二年の問題でないというところに、なほ、不可解な感じを受けるわけでございまして、こゝ現実と熊山市が向かつておる十萬都市という点について、食い違ひを納得のいくように御説明を願いたいと思つてございまして、第二番目にじんあいの処理場の問題であります。

こゝ問題については私は三つの観点から非常に大きな

疑問を感じざるわけでございます。

第一は市勢振興調査によりますとあるところにある処理場、場所は工業団地として開発するが、もつとも適当な土地であるということが指摘されておるわけでございます。館山市において工業団地として開発する唯一の土地だということでもって、その他に市勢振興調査の中に工業団地として、適地というものはあそこ以外に指摘してありません。従いまして私は今まであり、昭和橋の周辺の土地がやはり館山市における工業団地の中心になるのではないかと、この点をひそかに期待しておったわけでございます。それを裏づけられるべく、今年の春以来通産省の工業適地団地の調査が行なわれ、あの周辺の土地についてもいろいろ調査をされたということも新聞紙上からも伺うた。さらには企画課の方においても、そういうところ

ついで御案内申し上げたところであるということを伺つて  
おるわけでございます。

こういうことを私なり市民は非常に大きな期待を持ち  
あゝ土地について関心を持っておったということを私は  
まずここで申述べたいと思つておるわけでございます。

次に二番目といったまゝであつた土地についてこういう点  
も伺つておるわけでございます。すなわち数年前あ  
そこが国有地の河川敷に対して地元の人たちが公用  
廃止の申請手続きを数十人の人が県に対して出  
しておるといふことであります。そうしてそれに対して  
館山市長として副申を付けておる。こういう事実でござ  
います。

これは県について伺つたところが確かに公用廃止の住民  
から申請が市長の副申を付けて出されておるといふ

ことを確かめて参ったところであるわけでござります。  
この点について私はまず申し述べておきたいわけでござ  
ります。

第三番目に私は最近衛生施設課において、あそこ、河  
川敷をどんあゐる処理場といふところまで決定し、衛生  
審議会においてもこのことは決つた。そうしてあそこ、土地  
にどんあゐる処理場を建設するべく、いろいろな事務手続  
き、起債の申請、こういうことも行なわれておるといふこと  
を伺いました。

その上に私は非常にはなはだしいのは、このどんあゐる処理  
場を作るに當つてあゝ河川敷に対して、館山市から同  
いように公用廃止の手続きが果に対して取らなうと、な  
ういふことであります。果はそれをまだ受理してないやうでござ  
います。それとも、その点については、館山市から、住民に

公用廃止してもらいたいという申請の副申が出ておるう  
で共願という形になるのでその点を解消して持ってきて  
いただければ都合がいいのだということを集方では申し  
述べたということをおります。その後若干の時間  
もたっておりますから現在はどうなっておるかわかりません  
こゝ三つの事実をみるときに私は館山市の市政があまりに  
行き当たりばつちりなずさんな状態ではないかという点を  
考えざるを得ないのであります。

言葉が過ぎるかもしれませんが一方においては工業適  
地田地としていろいろ計画してある。すぐ裏をかえして  
公用廃止の住民の要求に対してある土地を払い下げま  
いだろうかという副申をよえておる。そうして、それと

同時にいんあい処理場を作りたいからといって衛生施  
設課を中心にいて決定をしておる。そうして住民の意思



を全く無視してあそこいんあい処理場の建設をするのだから、市に対して土地を払い下げてくという手続をしておる。これが同一の人格を有するところの市の中において行なわれるべきことであるかどうかということについては、私は非常に疑問を感じずる。こういうようなことが公然と行なわれておることについて私は憤慨に耐えないのであります。

この点について非常に心配して質問しておるわけでございます。それについても私が心配しておるようなことがないかどうか。その点について私は明解なるところの御答弁をいただきたいと思います。

第三番目に観光開発と国有地の使用の問題でございます。

この点につきましてはかねがね議会におきまして館山市政の中心であるところの観光開発については国有地の利用

というものを最大限に行なっていくべきだという点について  
同僚議員からうすでに多く迷へらへておりますので、そ  
うは省略いたしますといひまゐりて、私はここに一つ非  
常に不思議な点を感じたわけでございます。と申し  
まするのは二年前に経済委員会におきまゐりて私も  
が市内視察を行なったときに洲崎灯台を案内された  
ときにこの洲崎地域は観光の中心的な基点にいた  
りまして洲崎から白浜にかけての観光有料道路を  
作つて洲崎・白浜・こういう二大観光拠点にしたいと  
いう説明を受けられたわけでございます。その後観光有  
料道路につきまゐりては実現してまいります。

あのとき説明にあり洲崎灯台周辺の用地一万数千  
坪に対して京成に四千坪ですが、三分の一程度の土地を  
払い下げることになつておるといふ説明を聞きまゐた。

残り半分以上の土地については、果並びに館山市において  
市民乃至国民が自由に使えるような土地として確保して  
おきたい。だ、かような御説明を受けていたわけでごさ  
います。

従いまして私は、あ、洲崎灯台周辺については、京成を中  
心として、ところ々一大観光都市ができるものと、期待を  
おたわけでごさいます。けれども、この九月、地方新聞  
にあり、周辺に対して、東京の某観光開発会社に対して  
オリンピックの代替地として、払い下げることになったのだ。

それがすでに決定した。そのために、館山市乃至千葉県に  
おいては、全く、寝耳に水であつて、一方的に、そのような払い  
下げがなされては困る。だ、ということ。で、市は非常に憤  
慨しておると、いう新聞記事を私は、みたわけでごさ  
います。かようなことが事実であれば、全く大へんなこと

だということ、早速私はこの問題の調査に伺ったわけでございます。

九月三十日関東財務局より千葉支局並びに県庁の開発計画課に参りまして、こういうことが報道されておたけれども、これは事実なのか。国有地の払い下げが、地元館山市の了解がなくであり得るのか、法的にどういうことができるのか。こういう点について私は質問をいたしました。そういたしますと、関東財務局においても県庁におきましても、そんなことはございません。

これはやはり法的根拠ということではなけれども、事務手続上、地元市町村の了解をもって払い下げをしておる。同意のないものについて払い下げをするというケースは全くありません。こういう返答を受けただけで

ございます。

ーからは、こういう土地が、こういう観光開発会社に対して  
払い下げになっておるといふことはどう思ふか。

こういう質問をいたしたわけでございます。

すると、関東財務局、千葉支局におきましても、いや  
館山市からはちゃんと副申がついてきております。

こういう返答であつたわけでございます。

私はあまりうことに早速県庁に参りまして、果う担当課に  
聞きまゝのところだが、その点については、館山市から副申  
をもらうてゐる。あなたは市会議員をおつて知らなかつた  
んですか。こういうふうな逆に聞かされて、私はあ然  
と一たわけでございます。

聞きますと新聞に報道されて経済委員会において  
市当局に対してあつたような新聞が出ておつたけれども

実際にはどうなんだ。こういう形、議員の方から質問されたことに対して市当局から説明があつたそうでございます。国々やることだから館山市としては、どうしても副申をなさざるを得なかつたのであつた。こういうことだつたそうでございます。

経路報告的なことであつたというふうに伺つておるわけでございます。

私はこの点について非常に憤慨しておるわけでございます。いまして館山市長は館山市住民の福祉と生活を守るために館山市民から選ばれたところ、市長であるわけでありまゝ。それが館山市民のすべての人が非常に期待しておるところ、洲崎の観光開発について計画を何らかえりみずに国から言われてきたから副申をなさなければならぬのだという形で

もつて、経済委員会並びに議会等の議論を徴さずに、私に言わせれば、簡単に同意をいたすということについて、非常に不満なわけでございます。

と申しますのは、そのことに対して、あつた崎灯台周辺の付近の土地はほとんど観光会社に渡されて、市が、これからあそこを観光開発をいろいろ計画しておる。今後は個人と市がいろいろ交渉して頼んでいろいろやらなければならぬという立場にかわつてしまつたわけでございます。

こういう点について、どういふ責任を感じるかということでございます。

まして私はこの国有地、取り扱ひについて、こういう点から、も一つ非常に疑問を持つわけでございます。

と申しますのは、先般から、船形周辺におきますところの

国有地の使用によるところの住民がたくさんあるわけ  
でございます。百人を越えるところも多々人たちが

国有地を借用して入っているわけでございます。

そうしてその内容を伺ったところが住宅ということでは  
国有地が借り方ないで、掘立小屋ということでもって  
国有地を借りておるといふことを伺ったわけでございます。

そうしてその掘立小屋なるものを多々人間が入るよう  
な住宅に改造いたしたところ、早速、渠々方から、  
あなたゝ家は掘立小屋ではなくて住宅になつたのでは  
ないか。住宅を国有地に建てらねては困るゝだから  
こわいなさい。こういう勧告をされたといふことで非常に  
に苦んでおる人がおるわけでございます。

私は一方の大きな資本家に対しては、国からやってきた  
といふことでもって二つ返事で判を押して払い下げを



する。カーナから零細な漁民、零細な市民が国有地を借りて、そうして振立小屋が建てられない。という状態。そうの中でもって生活している人が百数世帯に及んでおりながら、これらに対して何らの対策も立てない。こういうことであつては、本當の政治というものではない。という点を感じずるわけでございます。

こういう意味におきまして私は、この観光開発と西岬地域におきます国有地を払い下げ、さらには船形周辺の振立小屋に入つて国有地を借りて生活をしている人たちに對するところの問題をどうように考えておるのか、私はお伺いしたいわけでございます。

続きまして市営住宅の入居問題について、大きな二番目として、簡単に御質問申し上げたいのでございます。市営住宅もこのたび、昭地区におきまして数十世帯入居

を受け付けております。たくさんの方が入居希望をお  
いております。

館山市の市営住宅は二種でございます。で、困窮家庭  
の人だけーか入しません。すなわち二万以下の月給取りで  
所得ーかない人でなおかつ、住宅に困っている人が入るとい  
うことであります。

こういうことで、市におかしましては、嚴重に選考をして、  
今まで市営住宅に多くの人を入居させてきたものと思っ  
ております。

この選考については、選考委員に当てられた人が最大う努力  
を払ってゐること。そうして公平に行なわれたということに  
ついては、敬音心を表したいと思つうのでございます。

ーかーながら、現実に市営住宅に入っている人が二、一年  
前まで、二年前まで二万円以下、所得者でもって困窮

をしておいた人がどうかという点について、疑がわしいような状態の家庭が非常に多いということです。食ふ生活者が市営住宅に入って所得がふえて、そうして健全な家庭を作れるということについては私は非常に好ましい傾向であるというふうに感じておるわけでございます。

一かゝながら、その反面、現に非常に食ふ生活をしておりながら、市営住宅にも入らない。何回申し込んでも落ちてしまう。こういう人たちが非常に不満を感じておるわけでございます。

ニう一点において、私は現在入っておる人たちの多くの人たちが、現在も時点においてそれほど所得が低いのかどうかという点について、どう程度か、その内容をお伺いしたいわけでございます。

それに、関連いたしまして、この基準で参りますと、多くの

給料所得者が入らないわけでございます。

こゝで、私は、関係してまいりますところ、富士デパート、さらに公務員労働者の方たち、こういう人たちが源泉所得という問題があるためにどうしても二万円以上に所得がなつてしまつて、こゝ市営住宅に申し込む権利がないという状況であるわけでございます。

こゝに労働者の方たちは、五年たつたが、十年たつたが、生活はなかなかよくならないわけでございます。そればかりではなく、住宅問題については、非常に困窮をしておるわけでございます。

こゝに、こゝについてどうしようにお考えになつておるかというところでございます。

私は、市営住宅の申し込みは前回百何人、今回もきのうの段階で十二人だけ、とても締め切りまでには百人を多

少オーバーする見込みであることを聞いております  
るけれども、今館山市において低所得者をもって住宅  
に困窮しておる人たちが、百人や二百人でなく、多くは勤  
労者の中においても住宅に困窮しておるけれども、二  
万円と三万円ととか四万円とかなという形の中で住宅  
に入らないという現状があることを知っていただかないわ  
けでございまして、そういう中において私どもが再三に  
わたるまいと、市に対して陳情申し上げ、勤労者住  
宅の確立、さらには第一種市営住宅の建設という  
ようなことを申しておるわけでございますけれども、こ  
ういふ点について今後考慮していく意向があるのかどう  
か、その点についてお伺いしたいわけでございます。  
以上いふ点について御質問申し上げまして、御明解なる  
御答弁をいただきたいと思います。 (拍手)

(市長登壇)

市長(本間讓君) 辻田議員の御質問に對しまして、御回答を申し上げます。

最近市政が片寄つた有力な人の諮問によつて進められ、議會輕視的傾向が感ぜられる。こういうことでございますけれども、私は議會を輕視するなど毛頭考へておらないのでございます。

議會の諮問や承認、決議事項等は、今までも尊重してきまして、今後とも尊重して参る考へで、またそれが当然であると考えておる次第でございます。

市政に取りまして重要な問題は、私の権限事項でありまして、議員の方々には議會やその他方法で御相談申し上げて参りまして、今後ともまた、さういうことになつて考へておる次第でございます。ただ地方自治法の

本旨あり方からいたしまして、広く住民の意見にも耳を傾ける必要があらうかと思ひまして、私は意思決定の参考意見として直接市政に参画する以外に各専門分野の人たち、観光に衛生、産業、消防に各種委員会、組織を通じて意見を拝聴してゐる次第でございますが、もし、そのようなことから議会軽視とみられるならば、私といたしまして非常に遺憾に考えておりますけれども、ただ今、計日議員さん、議会尊重というやうな関係の御趣旨につきましては、十分に考えまして、今後市政を運営したいと考えてゐる次第であります。

なお、教育、産業、観光の重点施策として十萬都市、市勢振興調査の関係について御質問でございますが、十萬都市建設構想の推進については、長期的視野に立つて計画を定める必要から、目下市勢

振興調査や商工観光診断等も参考に作成中ですが、  
 私有重点施策である教育、産業、観光については市勢  
 振興調査でも強く指摘されておりますので、計画の  
 中でも十分反映させていきたいと考えておる次第でござ  
 います。

ところで御質問の中学校統合問題でござりますが、  
 市勢振興総合調査によれば、学校数を現在より数  
 においてさらに増設する方向で指摘されておりますが、  
 学校はあくまで適正学級適正規模が理想であつ  
 て、これは文部省の基準もあることであります。また  
 現在長期計画策定のために関係者でいろいろ統  
 合問題が検討されておりますが、統合そのものが十  
 構想と相反する方向ではないかという疑念もあろう  
 かと思います。私は、中学校統合は諸産業や都市計



画とは違ひまゝで、将来を見通し、現実を無視して、矢  
行的にやる困難性もあらうかと存じております。

そのために児童生徒教員の地理的動向を考慮して、  
しかも市政と教育基本問題等、折り合ひの中で、  
適正なそういう面が前提となつて結論を打ち出すべ  
きものと考えておる次第でございます。

従いまゝで指向性としては、十分考慮するとして、十万  
都市構想即ち、中学校統合を結び付けることは無理  
があらうかと思つております。

十万都市構想の推進する過程で将来、その計画を地  
域的児童生徒教員の動向に対処して調整していく  
ことで処置したいと考えておる次第でございます。

教育のことにつきまゝでは教育長もおりますから、あとか  
ら補足していきたいと思ひます。

それから、トーンあい処理場、設置と工業開発をどう  
ような経過で解決していくか、こういう御質問でござ  
います。が、工業開発計画は、今や、ところ補産省の  
調査により工業適地区域として位置が予定された  
程度で、実地に伴う詳細な計画は、今後、ことであ  
ります。

従って、開発計画を推める過程で、予定地域に支障が  
生じ、工場合は、変更、調整等、処理場が取り入るので  
処理場設置の場所については、支障がないものと存じます。  
ただ、工業開発地域内にトーンあい処理場を含む  
二つの適否については、いろいろ考え方があろうかと思  
います。が、処理場の設置計画については、厚生省並  
びに、果ては関係諸機関の調査、意見等を元に、  
計画した上で、決して公害の影響等はない、将来工

業化された場合でも、それから多量に排出されると思  
われるところの処理の面から審するところであり、不利  
の面はないと考えております。従つて工業開発計画  
に包含しても、住民各位の理解と協力によつて早く  
建設を実現いたしたいと考えております。

それから位置につきまゝて農民から払い下げ申請について  
副申さというお話でございますが、これは払い下げでな  
く借用というものであるわけでございます。

二点につきまゝては、トーンあゝ処理場につきまゝて、五  
六カ所いろいろ選定したんですが、いろいろの関係から  
一まゝて結局、あゝ位置が一番いいではないかという  
ことになっておりまして、耕作されておる農民の方々とも話  
合ひまして、あゝ四千坪の部会については、借用の申請を  
却下して、市の計画に同意すること、こういうふうな事

びに相なつてゐるわけでございます。

それから第三点、国有地の払い下げ申請は市役所経由でやるのが普通であり、その都度地元市長としての意見書を付けてゐるわけでございますが、一般的には申請の内容が市の計画、方針に支障がないかどうかを市におきまして検討し、その際特に直接的な地元である当該部落の代表者等にも意見を徵してゐるわけでございます。

ただ今お話しでございます。たように洲崎灯台付近の海岸線は払い下げでございますが、これは国の意思によつてきめたのでございますが、市としましては、これに對しまして、果に抗議をいたしますが、果におきましても、その前に国に抗議をいたすということでございます。

結果的にはもう国がそういうことをやってしまったあとでわけ  
で、形式的に市の同意が必要というようなことでの段階  
でまゐりますので、これは同意をしないわけではございません。  
一か一ながら、附々、隣付近々、地所の払い下げ会社に対し  
ましてはいろいろ市の計画を提示いたしまして、市の計  
画にそつてやるようにお話しまして、ところが、市の意向に  
従つて今後やっていく。例えば、あまり大きな建物を海  
岸、ふちに建てらるゝのは、風致を害する。そういう  
建物等につきまして、今後やる場合には、市と協議  
してやつてもらいたい。それはよろしい。こういうことに相  
なつておるわけでございます。

それから小さい方々の生活、地所、払い下げとか、一時借  
用ということについて、非常にむづかしくて、大きい人に対し  
ては、非常に簡単に取り扱うではないか。



うある人につきまゝでは、委員会等にはかりまゝで、できる  
だけ、便宜をはかつて参りたいと考えておるわけでございます。  
御質問で落ちてゐる点がございませう。おつゝ、つてい  
だきたいと思ひますが、詳しうことは係の方から御説明  
申し上げます。いかがでございませうか。(拍手)

一〇番(辻田実君)ただ今の答弁、私が質問した点について  
ぴんとこないやうな気がして、私も困つておるわけでござい  
ますけれども、その中で三、四点細かい点については、さう  
ありませんが、基本的な問題についてお伺ひたいわけ  
でござります。

まず、冒頭の「議会民主主義の育成」という点については  
確かに議会を尊重しておることでおつゝ、やつてあり  
ます。議会を無視しようという点も毛頭ないという  
ことも承知しております。一か一今答弁されておる中

で議員さん以外の人から広く住民の意思を聞くために  
 いろいろ団体の人からも意見を拝聴してやっていくのだと  
 いうことをおっしゃっていらっしゃるが、私どもは、市民を代表して  
 議会で政治をやれということと、要請されてきておる議  
 員だ。議員以外の人から市民の声というものは、議員を通じ  
 て、議会の中から論議されるのが、私は、議会民主主義  
 の正しいあり方であるというふうに考えております。  
 その点について議員以外の人たちからも広く市民の声  
 を聞くということをおっしゃって、確かに言葉は  
 まいでありませう。

議員はいらない。団体や代表を議員にしてやれば、いいこと  
 であって、現在、民主主義というものは、議員が住民代表  
 として、館山市六万の代表として選ばれてきておる議  
 員だから、それを中心にしてやっていく。意見を聞く場



合には、そういう専門の団体なり学識経験者については、議会や委員会にきて、参考意見として、公聴人として意見を述べて、議員の判断にまかせるが、私は議会民主主義の正しいあり方ではないかということとをいつたわけでございます。その点は市長さんの方も非常に錯覚しておられるようでございます。今後そういう点については慎重に選んでいただきたいということを要望いたします。

この点については要望にとめたいと思います。

学校統合問題についてでございますが、将来を見通してやるので、現実と違ひもあるかもしれませんが、こういうことでございますが、確かにそのとおり、七校ある学校を三校に統合していくという現実、市長さんおっしゃっておるように、正学級というのは、十二乃至十八学級と

いうことです。 そうなれば人口から逆算していけば、当然学校が五つ、六つあって当然ではないか、それを減らしていくような傾向が教育委員会において討論されておる。

審議会が決定して、議会に対してこういうことについてどうなんだということで提案さすまいたら、私は現段階では反対しなけねばならない。

これが議会において否決さしたら審議会より十数名の人たちの顔は私という有力者たちです。 那些人たちが非常に時間をついせいで審議したものが空論であつたということがわかつていながら、議会に提案さすべし、いさずらに議会の議論を複雑にさせるといふ結果になる。 そういう点を私は考えておるわけでございます。 一、その点について、そういう傾向にあるのを知っている

のかどうか。その点について当事者は真剣であるかもしれませんが、  
せんが、第三者からみると、こつけいであるわけでございます。  
こゝ点についてももう少し教育長の方からでも結構で  
ございますから、御答弁をいただきたいと思います。

じんあい処理場の件でございすが、通産省の工業適  
地団地として調査を受けてまだ計画の段階だから  
ということをおいておるわけでございますが、もう一つ農民か  
ら払い下げでなくて借用ということですが、借用という  
ことは、農民並びに地域の住民がじんあい処理場の  
ほかに市民として必要であるからお願いなので、そ  
の点について結構だとお答えして数年たないうちに  
じんあい処理場を作るということではいきなりばつたり  
的な感じがする。

館山市民は市に好意的でございす。市がそういうこ

とであれば、私たちも引き上げるといふことはあるかもしれないが、我々議員として市政の審判として選ばれておいて役に立たないといふことで、議員として責任を感じるので、こういうことをいうわけでございます。

市長がおっしゃるように工業団地と処理場は所立というけれども、議会なり、そういうものについて慎重審議しなかつた、一方的にきまつた。

あそこに設置するといふことで提案された場合に、あそこ土地条件からいって中心的地域になるという問題があるわけでござりますけれども、反対さなければ、どういふことにいたします。

議員は反対のため、反対か、反対ではないかといふことで、もって、議会制度そのものがおかしくなつて、もうわけがございまして、その点について一点。

さらにニラーた点について関係各課を連絡を取ってやっておるか。ニラーたことに矛盾を感じないか。感じたかということについてお答え願いたい。

もう一つ国有地の問題でございますが、大きな面では簡単だ。小さな面についてはむずかしい面もあるけれども、そういう面については極力善処していきたいということと、もう一つ、もう一つありますけれども、数年前から、館山市にそういった小さいところでもって住宅としては許可にならないところを、振立小屋ということで借りて生活している人が何百人もいる。

それらについて知っておるかということについてはまずお伺いします。それから、それらについては何らかの住宅対策をさうでも講じたかという点について簡単でよろうございますから、それら二つについてお答え願いたい。

以上点について、私、御質問申し上げました趣旨に従つて御明解なる御答弁をいただきたい。かように思っていますのでよろしく願ひいたします。

・教育長(押本禧徳君)教育問題についても答へ申し上げます。

中学校統合問題でございすけれども、こゝが問題になつてきまゝたことは、市の十年先を見通して、長期計画を教育委員会、教育の部を作らなければならぬというところになりまして、いろいろ事務局内、委員会、こういうところで検討しつつある段階でございす。

十萬都市建設並びに館山市振興調査報告というものがあつて、一つは十萬都市という形において検討するとうことになると、まあ、一つはものがあてくるかと思ひますが、先ほど市長さんがおつて、いま、工場誘

致とか、住宅建設とか、或いは、道路計画というものは、これは、先行していてもよい性格を持っていると思う。でござりますけれども、学校の建設乃至は統合問題というものは、どうしても現時点の正確な資料把握、こういうことを基礎にして作っていくべきであつて、こういうところにいくらの人口ができるであらうということ、で、学校を設置乃至は、そういうことをにだちに執行部としてやっていくことは、そういう性格を持っているものでないというふうに考えているわけでございます。

なお、統合問題の基礎数字を申し上げてみたいと思いますが、一応十年計画の中には、幼稚園の問題もあり、まゝ、小学校の問題もあり、中学校の問題、こういうことがあらんでくるわけでございますけれども、特に中学校の問題から、教育委員会として、案を

きめようということでは苦勞してゐるわけでございます。

そう元々数字を申し上げてみますと、現在七つの中學校があるわけでございますが、先ほどから話に出ておりますもつとも生徒の教育を充実、發展させていく、こういうことのために、大都會でいろいろな観点から十二學級乃至十八學級、多くても二十四學級、ここらが生徒の掌握、運営、或いは先生の定員配置の状況、或いは校地、校舍施設、そういうものの充実のバランスを取る、こういうのは、そういう學級ということに一応指示されてゐるわけでございます。

そこで一応最低の十二學級というふうなところをおさえて、現在七つの中學校を調べてみますと、神余中學校が三學級七十九人、豊房中が六學級百九十人、西岬中が七學級二百七十九人、第四中が八學級三



百十四人、房南中が十二学級、四百五十六人、第一中が十九学級、八百三十五人、第二中が三十五学級、千六百三十一人、三という数字になっております。

二いが昭和四十五年にはどんな形に推移していくかは、今の小学校の生徒数からおいて考えますと、神余三学級六十一人、豊房四学級百二十四人、西岬六学級二百二十一人、田中が六学級二百八人、房南が九学級三百五十七人、一中が十五学級五百八十五人、二中が十九学級千百八十六人、三ということになるわけでございまして、十二学級というところ、今、時点で考えますと、五百七十六人であり、将来一学級四十五人ということになりますから、昭和四十五年になると五百四十人という生徒になるわけでございます。

そうしますと、現在でも五百人以下の中学校というのは、西

岬中・神余中・豊房中・茅田中という数字があるわけ  
でございす。

四十五年度。時点になりますと、神余中・豊房中・茅  
田中・西岬中・房南中。こういう五つの学校が独立  
学校としては、適正規模学校よりは、数字が低い数があ  
てくるわけでございす。

こういうところから統合というようなことを考えていくわけで  
ございすけれども、いろいろ問題については、現在検討  
中でございまして、最終的には、当然、市が議員のみなさん  
の御批判と御検討をいただくにあつては御決意をいただく  
実施するわけでございすますが、今の段階では、委員会  
としていろいろ若勞しておる階段でございすことを申し  
上げてお答えになりますかどうが。

。助役（小太武男君）処理場関係で私から御説明申し上げ

ます。

処理場をある地点にやることう可否につきまゝて十分検討いたしたのでございますが、これは先ほどから辻田議員の御心配のようによ、今後市の開発計画と関係深いことについては、実は最初から大きな課題として研究いたうてございますが、処理場自体が、そういう施設に支障がないという見解を持つたのでございます。うなれば、処理も一つ、処理工場であるというおまゝかな考えも成り立つてはいないか。

館山市が非常に青浄な地区でございまして一本の煙突でも気にすることが多分にございます。やはり工場誘致をするというときに大きな気持で煙突はホテルでも立つのだという時期がやがてくるのではないかと、うことを考えまゝて、工場地帯、住宅地帯でも支

障がないという見解を取つてある地区に決定すべき  
方向を取つたのでございます。

その過程におきまして、辻田さんやおつゝる用地の使用に  
関係でございしますが、これは市長から申し上げましたよ  
うに過去におきまして何か公共的施設に使う場合に  
いつでもな返すという目的のもとに借りるというこ  
とでやつておつたということであります。

今回耕作者もそういうようなことで、納得をいたしまし  
た。さらに市をいたしましても、辻田議員の心配  
されてゐるように過去において使つておつたという面  
積は埋め立て用地が広くなりまして、この施設を  
作りましても残余の部分でそれに近い面積は供  
給できる。こういう状況もあるものでありまして、それ  
をこゝで地元の人も納得をいたして、この点は用務に

誰んでおります。

さらに処理委員会にも、幾たびか会合を開きまして、委員会の意見をいろいろ検討し合つたのでございますが、二つらの意見も現状がきわめて不衛生な、過去十年間ぶざまなかりを解消するためには、いゝだろうという二つで二つも了解し、納得さうな線でございます。さらに果う関係でございしますが、果う関係も了解を得まして、果う土木出張所の窓口がございしますが、市からも果う方に法律をしておるわけでございます。

すべてが、三つうふうに一応了解の線にきつたわけでございますが、たび一部、今後は煙突のけむりとか、ほかの面で、湊地区あたりでどうか、という心配をされておるようでございますが、二つうの点につきましては、今後う問題としてよく了解を得て、すみやかにこゝえて、そうして現

状から脱却としてきいいな場所になっていく。こういうふう  
に考えておるわけでございます。

土木課長(新井重助君) たび今、国有地関係のお話が  
ございまして、その辺のところを申し上げます。

国有地は一応海岸砂地ということ限定いたしまして  
て、私どもも答えるんですが、海岸砂地は建設省  
の所管財産になっております。

公営的に使用するのを目的としておるわけでございますが、  
網小屋を作るとか漁師の休憩小屋を作るとかいうこと  
については許可が与えられないのであります。公営的な  
施設に反する住宅というものには許可がないという  
ふうに取り扱っております。そういうところから参り  
まして、網小屋とか、そういうものは、なるほど漁師が困る  
のだという点を勘案いたしまして、地元の漁師のことで

でございます。私もその実現に努めております。  
その中に一人住むとか二人住むという現況も生じて参  
ります。

そういう地区につきましても公共の用に供せない土地とい  
うことに解釈されますので、現実的に家屋が建ったとい  
うところは公用を廃止いたして順次払い下げすべきだ  
という線を出しまして土木事務所の方にも話してござ  
います。一応船形の方におきましても払い下げの  
申請も一部出ておりますので、順次解決していく  
のではないかと考えております。

なお船形地区から堂の下に参ります新設道路や  
あります。その山側はすでに道路がさきからま  
して公共的用地として、財産価値がなくなるので  
こちらも公用を廃止して払い下げの段階に入るもの



と考へております。

さういうわけで、最近におきまして無断で住宅を建ててしまった。さういうところもございます。取り締まりに土木事務所も大へん手が足りなくて困つておる状況で私ども市といつても取り締まることのできませんで、書類の送達という段階にかつておりませんが、地元の漁師の幸わせになるような方途で進めております。以上でございます。

○番(廿田実君) いろいろ質問したいと存じますが、時間がございませんで、やまずけれども、助役さんが答弁された中に質問の要旨があるわけですから、二、三、点、要望として申し上げて、あと、細かい点については、委員会等でやつてもらうことと。今、申しましたように、処理場の問題について、いろんな



形でもって慎重審議をして、ようやく決定したのだと  
いうことをおっしゃっておる。

このことについては私は敬意ははらいます。一かゝながら  
慎重審議をして、決定している処理場の設定についても  
議会においては一度も話は聞いておらない。まして委  
員会にも全然審議されてない。私はどこで慎重審議  
したのだということをいいたくなる。議員は無視されて  
おる。

こういう基本的な問題、都市計画的な問題、そういう  
決定について、その関係者だけでもって話をすればあ  
そこがいい、ここが悪いということになる。一かゝながら産業  
経済、民生福祉全般にわたったところの討論というも  
うは、議会という場で集約される。そういう問題が委員  
会にもはからぬというところは遺憾だ。その点について

は、何度もうように、議会を中心としてやっていただくに従いまして、今後、そういう形の中でお願ひしないわけではございまして、時間がありますんで打ち切りだと思ひますので、今後よろしく願ひいたします。

助役（小虫武男君）ただ今私決定、決定と申しましたが、これは決定ではなれて内定でございまして、決定は議会のかりまして、御決定願うわけではございまして、決定と申し上げる内部的に決定、内定の意味でございまして、御了承願ひたいと思ひます。

議長（田中祿郎君）以上で通告質問を終わります。  
午前の会議はこれにて休憩といたします。

午後一時二十分 休憩

午後二時二分 再開

議長（田中祿郎君）午後、出席議員数二十九名。

午憩前に引き続き会議を開きます。

日程第三、議案第七十号乃至七十七号を一括して議題  
といたします。

この際申し上げます。議案第七十号乃至第七十七号の  
内容説明は先日の会議の際に全部終っております  
ので本日はただちに質疑（より）行ないます。

一番（吉田勇治郎君）議事進行の動議を提出いたし  
ます。

ただ今議題となっております議案第七十号乃至第  
七十七号昭和三十九年度一般会計並びに特別会計  
決算書の……………

一番の発言取り消します。

議長(田中祿郎君)暫時休憩いたします。

午後二時五分

休憩

午後二時十分

再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

御質疑願います。

二番(君塚喜三君)私は歳入の五款使用料及び手数料の四目衛生手数料についてお尋ねしたい。

六ページ当初予算額に対してまことによくいったように受け取りますが、猶、九月定例市会において三月三十一日、要するに年度末において滞納額五十万というやつがあったはずで、このような処理がなされておるか。

お尋ねしたい。

・収納課長(多田俊一君) ただ今の質問に対してまいってお聞き  
たいと思います。が、滞納繰り越し額が予算に計  
上されていなかどうかということでごまいますか。

・ニニ番(君塚喜三君) 実はあると議題にもあるわけです  
が、関連するわけでございますが、九月定例市会に  
おいて、はっきり、年度末において五十万の滞納がある  
ということを言明されておる。従って、そのような、そう  
後何らの処置もなさっていないように思つて、これに  
かようなものが出ておるかどうかということをお尋ねす  
るわけです。

・収納課長(多田俊一君) お答え申し上げます。当時私の  
方で滞納繰り越しをいたしまして、確かに五十  
万の滞納繰り越しがあつたのでございます。その後、収

入さるまいて、現在は繰り越しかといひまゝでは八七%  
収入されております。

・ニニ番(君塚喜三君) 五十二万九千三百四十五円という収入未  
済額があるんですが、その中にそれが含まれておると  
いうことなんですわ。

・収納課長(多田俊一君) そうでございます。

・一番(吉田勇治郎君) 議事進行の動議を提出いたします。  
ただ今議題となっております。議案第七十号乃至第  
第七十七号 昭和三十九年度一般会計並びに特別会計  
決算書の審査につきましてはいさゝか、例にならぬままに、決算  
を実施するといふことになってまいりました。例にならぬままに、決算  
審査特別委員会を設置いたしまして、その審査期間  
を三月の定例会までと一、二に付議し、なお委員の  
数は十名、選任の方法は前例により議長、監査委員及

びすでに決算委員となつたものを除き、備考一、議長  
において、指名により、決定するよう、ここに議会運営  
協議会を代表し、動議を提出いたします。

どうぞ、満場各位の賛成をたまりませんようお願い申し  
上げます。(拍手)

議長(田中祿郎君) たび今、一番議員より提出された  
議事進行の動議を議題といたします。

たび今、動議は議案第二十号乃至第二十七号について  
の質疑はひとまずこゝで打ち切り、慎重審査の  
必要上、特別委員会を設置して、こゝに付議し、特に  
関心中審査の特別付託をいたいたいということであり  
ます。

おはかりいたします。

こゝ動議に御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって決  
ま—た。

重ねておはかりいたします。

本動議によりますと、委員の数は十名。選任の方法  
は、前例にならう。選挙—議長が指名によらう。た—  
う—とであります。

二—に御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって以上  
と—り、決定いた—ま—た。

暫時休憩いたします。

午後二時三十分

休憩



午後二時三十五分 再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続きの会議を開きます。  
二いより決算審査特別委員会の委員を指名いたします。  
六番議員 秋山六三郎君 九番議員 安西益男君  
一六番議員 関 武夫君 一七番議員 黒川佐太郎君  
二三番議員 中村省吾君 二五番議員 萩生田七郎君  
二八番議員 山田教字君 二九番議員 鈴木市藏君  
三一番議員 安沢徳順君 三三番議員 高橋文治君  
以上十名の方を決算審査特別委員会委員に選任いた  
します。 二よに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よって決ま  
り。ただ今選任さした決算審査特別委員会に議  
果第七十号乃至第七十七号の審査を一括して付託し

関会中審査と付議いたします。ニよに御異議ございせんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって決まら

た。ただ今選任の委員の方々は本日中に正副委員  
長を互選いたしますので御了承願います。

日程第四議案第七十八号 議案第七十九号を一括上  
程いたします。

「異議なし」と呼ぶ者あり

議長（田中祿郎君）御質疑なしと認めます。

議案第七十八号 議案第七十九号 討論省略原案  
通り可決するに御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって決定いたし  
まーた。

日程第五議案第八十号を議題にいたします。

二四番（島野茂樹郎君）一点だけ伺いたいと思います。

別表が新しくこのようにかわるわけですから、解体料  
八百円を含むニは牛、馬、豚、それぞの解体料  
というものが含まれておるわけでございますけれども、ニは  
特に、こういうふうになければならぬ理由はどういう  
ところにあるのか。解体料として、この分だけはきめられて  
払うというふうにするのか。そういう点について御説明いた  
だきたい。

衛生施設課長（吉田耕一君）お答え申し上げます。別表の種  
類、單価のうち、解体料でございますが、従来より、ま  
ーたものにつきまーては、食肉組合によって雇い上げてあり

まゝて、市の關係はなかつたというふうになつておりました。が、  
今回ニハを正常な姿にもどしていくということから、市の  
臨時用人として雇ひ上げていきたいというふうに考えたわ  
けでございます。

従来やつておりました過程におきましては、その日、取り扱  
ひ数量、一頭について八百円、或いは、百五十円、百円という  
ふうな額、合いうもとに支払われておつたということ等も  
十分考え合はせて、屠夫の意見等も伺ひまして、  
とりあえず、従来より収入が減るということでも、気の毒  
だということ、従来と同じような一頭当りの単価で支払  
ひていきたいと考えて、こゝうにいたつた次第でございます。  
二四番(鳥野茂樹郎君)わかりました。そうしますと、解体と  
いうのは、賃金を払うわけですか。その他に解体料と  
して、それぞ、種別によつて違ふわけですか。解体

料を賃金うほかにもらううだというふうに理解してよろう  
ゆうございますか。

衛生施設課長(吉田耕一君) 説明が不備で申し分けござい  
せんが、二千五百円というのは、と畜場へ使用料全部含む  
解体まで含むということでございます。特にここに上げま  
すのは、二千五百円の中から、解体料八百円を一頭につ  
いて解体者に支払っていきたい。このような考え方でござ  
います。これがいわゆる賃金になるわけでございます。

一六番(関武夫君) 別表の金額につきましてお伺いたいん  
ですが、この間の説明で従来へ使用料が牛の場合に  
四百円、馬三百円、豚二百五十円、こういうことございま  
すが、今回改正によりまして、解体料を差し引いた市  
に入る分が牛が千七百円、馬が千七百円、豚が三百五  
十円ということになるわけです。値上げの率が非常に

高いんですが、それについて御説明を願います。

衛生施設課長（吉田耕一君）私ともいろいろとくわいの根拠と  
いうようなものも把握してございませぬ。一か一かながら、果  
におきまして、畜場協会というのがございまして、五、六  
年前から値上げのいろいろ検討をしておるわけでもござ  
いまして、その過程におきまして、値上げの運動とい  
うようなものもされておったわけでもございしますが、その間  
におきまして、認可というような面におきまして、各と畜  
場におきます設備とか、備品とかいうものも、完全で  
ない、場が多かったというものが、今までの草価を上げられ  
なかつた理由だ、そうでございします。

その間の物価の上昇、その他について検討いたしまして、  
結果、牛馬については、この程度が適当というふう  
に協会等の方針もございまして、私どもこれに同意を

をいわけてございます。

特に今まで四百円というのは、館山の場合、屠夫の賃金  
の八百円は全然入っておりません。従来はここにプラス八百  
円、千二百円だったということがい得ると思いますので、今  
回の値上げもそう無理ではないと考えております。

議長(田中祿郎君) 御質疑ありませんか。——御質疑なし  
と認めます。

議案第八十号討論省略原案通り可決するに御異議  
ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって、議案第  
八十号は原案通り可決せらるゝ。

日程第六議案第八十一号を上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)



議長(田中祿郎君)御質疑なしと認めます。

議案第八十一号は討論省略原案通り可決することに御  
異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よつて議案  
第八十一号は原案通り可決されました。

日程第七 議案第八十二号を上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)御質疑なしと認めます。

議案第八十二号は討論省略原案通り可決いたす  
ことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よつて議案  
第八十二号は原案通り可決されました。



日程第八議案第八十三号を上程いたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）御質疑なしと認めます。

議案第八十三号は討論省略原案通り可決いたしますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって議案第八十三号は原案通り可決いたします。

日程第九議案第八十四号を上程いたします。

一番（石井正君）二三お伺いいたします。

ハペーシ総務費の報償費・表彰条例に関する報償金ですが、きのうの説明によりますと二千五百円が三百人の予定というお話でしたが、年内に三百名の表彰者を考えておるのかどうか。

次に九ページ、諸費のうち工事請負費、交通安全自  
動制御器設置ですが、これは市だけの負担で五十八万と  
いうことであろうかと思いますが、この内容を次に民生費  
の貸し付け金、低所得者の貸し付け制度、きのうの説  
明で十三名、ということとで非常に少ないわけで、これは貸屋  
が廃止になって、かたがわりで、こういう制度ができたわけ  
ですが、今度年末をひかえまして、相当あるのではないかと  
いうふうに普通考えますが、非常に少ないんですけれど  
も、担当課で少ないという点について、何か問題がある  
のではないかと思いますが、その点をどうお考えになって  
おるのか。

次に十二ページ、生活保護費のうち扶助費、特に医療費  
が非常にかさんでおるわけですが、その内容について詳しく  
お聞かせを願いたい。

次に尿処理費の中う改めてポンプ等の設置があるわけですが、尿処理場が発足して事業を始めてから今まで数字と申しますか、経過と現在の状況をお話を願いたいと思います。

秘書課長（小倉登男君）第一点、報償費につきましてお答え申し上げます。

これは先般議決をいただきまして表彰条例によります報償費でございますが、私ども一応調査してみまいたところ非常に大規模なものでございまして、なかなか調査がたいということで一応十一月三日にとうてい間に合わない現況に達しまして、上司に相談いたしまして、決着を受けまして今年度内に適当な日を選んでこれを行ないたいということになったのであります。現在各課におきまして該当者を調査中で

ございしますが、私たちが方に集まりまして、ところが約二百八十名でございしますが、各課の資料もただ今、収集中でございまして、それに対して、これが該当するうなどという確定はいたしておりませんが、まず、かような数であるというところで、一応三百注文しておかなければ決断しても間に合わないということ、で三百をここに計上して、次才であります。

・商工観光課長（小沢正治君）次、交通・安全・自動制御器の設置に関して、工事費の財源内訳のことだろうと思ひます。これはロータリークラブで三十万円、交通安全協会で十万円、従いまして、一般財源を使用いたしますのは十八万一千円でございします。

・福祉事務所長（鶴沢賢寛君）民生資金の貸し付けにつきまして、大へん利用者が少ないというお話でございしますが、

公益質屋を廃止したために市としてこの制度を充足  
させたわけでございますけれども、実際には公益質屋を  
使用していた層とこの貸付け金を使用される方は違  
うようでございます。

貸付け申請が少ないということはどういうことか、ちよつと  
はつきりつかめないのですが、手続き上、めんどうと  
いえば、公益質屋の方は品物だけ持っていていけば、金がすぐ  
入るということでございますが、貸付け金の方は借りる  
ために二名の保証人を立てるということ。今、時代に  
五千円借りるのに二人の保証人を立てるというのが、  
おつくりにも考えらるゝであります。年末をひかえ  
まして、貸付けもふえてくるのではないかと考えられ  
ますが、現在まだ、その傾向はみえておりません。この  
程度あれば、年内の操作はできるのではないかと、

考えであるわけでございます。

それから医療費がだいぶ増加しておりますが、これは生活保護にかかっている人員が現在七百八十名でございます。そううちに医療扶助を受けておりますが、二百七十五名で一人当り平均いたしますと、一万四千六百円という額になるという事で、医療費が増加をきたしておるということでございます。

衛生施設課長(吉田耕一君) 衛生費のうち、一尿処理費につきましては、お答え申し上げます。

ただ今の御質問、現在まで、数字というふうな話でございまして、三十八年度、四十年度、細かい書類はございせんが、三十九年度の、みそ一応御報告さしていただきたい。あとはのちほどお答え申し上げたいと思っております。三十九年度におきましては、ただ今上程してございます。決算

書にもございすように支出総額六百九十八万三千余円  
でございす。

そのうち歳入におきまゝては六十一万二千円余でございす。  
一番(石井正君)再質問表彰条例の報償金について  
ですが、ただ今二百五十人ですが、まだふえて最終的に  
は、三百人位になるうではないかということです。

こんな表彰される方があると、年に三百人位ずつ  
表彰したら、たいがい人がかかってしまう。これも今まで  
にやらなかったといえ、それまでですが、はっきりまだ決  
定しておらないようですから、何とも言えません。ちな  
っと多いんではないか。基準が漠然としておりますので  
こういう結果になるのではないかと思います。最終的に  
どの位にばられるかということもお聞きしたいわけだ  
すが、足りないといけなから、三百額んであるという

と、今やお答えですと、ふえるうではないかというように  
腹に聞こえるわけです。

あまり多いというように気もいたしますが、その点どう  
お考えになるか。

それから貸し付け金ですが、やはり手続きに問題が  
あるというようにお話がありまゝだが、私も保証人二人  
を付けて五千円借りるということに確かに問題が  
あると思いますが、助役さんにお聞きしたいが、質屋をや  
めてあとにかわるものがないと困るから暫定的にこうい  
うものを作って将来は、二、三というものをなくして、まう  
のだという考え方があったように聞いておりますが、それ  
にしても、石前だけおいて、おいて借り手がなければそ  
れで済むのだというように考え方ではまずいのでは  
ないか。また手続きを簡単に、そして簡潔に使用



できるというやはり親切味を持ってこそ、市の立場だと  
思うわけですが、市としてもう少し方法<sup>さ</sup>を多くやるよう  
に考えたことがあるか。将来、これをどう迄まで続けるの  
か。さらに改善して続けようという考え方があるのか。  
以上二点。

秘書課長(小倉登男君) お答えいたします。実は表彰条  
例につきましては先般、議会におきましていろいろ御質  
問もいただいたのでございしますが結論といたしましては、  
館山市におきましては表彰条例が始めて制定された  
というふうなことからあくまでも今までにはなかったのだと  
いうことで今年十一月三日現在におきましての今までの  
該当者に差し上げるべきではないかという考えを持ち  
まいて、調査をいたしまして結果、約二百数十名という  
ものが現在調査の報告がきておるわけでございます。

ですから毎年三百名位という御質問もあつたかと  
考えられますが、そういうようなことはございまして来年  
度からはおそらく十名か多くても二三十名という数に  
なると思ひます。

館山市が昭和十四年度市制施行以来表彰条例が  
なつたために非常に膨大な数になるという結果が出て  
くるのではないかと、いうことでございます。

なお今後ずっと続けていくという面からいきましても三  
百個数注文しておけば来年にも使つていきないうい  
うことで考えておる次第でございます。

助役（小出武男君）公益質屋の廃止後の貸し付けの問  
題で私からということで、すから申し上げないと思つて  
すが、今申しなように公益質屋というものが、最近の  
傾向として非常に低調である。そういう関係

で各市とも公益質屋の廃止が行なわれてきておると  
いう状況下にあるわけですが、市における公益  
質屋の状況をみましても、そのごにふんに稱せず、ごく一  
部の人の融資を取り扱っておった。一かも、その内容は、  
本当に生活に困った方面に利用するかどうかという  
点が若干あやぶまゆるような傾向もあったわけでご  
ざいまして、そういう傾向に即応するため昨年度  
から廃止になつてでございます。一かし中には本當  
に生活に困つて一時的な金に困る方があるわけでご  
ざいます。その人なりにも全部廃止になつては不便を  
かけるだろうというところ暫定措置としてこの制度を  
持つたわけでございます。今、金にいて五千円でござ  
います。で、本当に生活に困るという人なら申し入れ  
があるのではないかと、いろいろ考えておる。でござい

ます。ただ公金を返すということで一応保証人をする。二、三のこと。何だか時代にそわない気がすることもあるのであります。本當に生活に困る人々のために一、二、三、今後とも情勢をみまいて検討してある期間に就いて、嫌廢止という考えは今ございません。

・二番(君塚喜三君) 私は一番議員の質問に關係をいたしますが、九月定例市会の際に通告質問をもつて衛生処理場の搬入手数料というものについて、その取り扱いについてお尋ねをいたしました。既に三十九年度末の滞納額は約五十万という御回答を得た。二のことは先ほど決算審査の質問のときにも確認されておる。ところが、三十九年度末収金があつたにもかかわらず、四十年の予算書には、過年度末収金というものがなし。二の三のことについて、通告質問の際に御指摘をいた

しておたわけです。

ところで、四十年度に入つた六月三十日末の滞納額は二十九万余円、これは七月二十八日に私が確認したところであり、ところが九月二十九日の通告質問の時点においては約十万円だという御報告がなされた。このことは先ほどもおつちやつたようにバセ%といひますか、これは回収せられただ。

前年度の滞納額が回収せられただということだと思ひます。だとすると私はここで収入役さんにお尋ねするわけなんだが、いかなる形においていつ幾ら収納されておるか聞きたい。

私がこのようなことをお尋ねする、は、今議会においてもこの審議中の補正につきましても、二十万、三十万といふような額において追加或いは更正が提案されておる。

約五十万円といったような金が行くえ不明の形のままでは  
いゝものかどうか、こう考えるからであります。

まず、この点についてお尋ねをいたします。

次に九ページ、二款総務費のうち十目諸費、那古、巡査  
駐在所改築、寄付金、四十万円に關連する問題と  
質問いたします。

九月、定例会において、駅前、文番建設費、寄付金  
九十万円が補正されました。

この際、説明に移転建築をすることとてありま  
したが、その後、私に聞いた点では、その移転先について今  
なお話し合ひがつかない。着工できぬのだというこ  
とであつたわけでございますが、その後の経過はどうなつて  
おるかお尋ねしたい。この二点についてお尋ねします。  
収入役（矢戸貴君）ただ今、衛生処理場の手数料の点につ

きまゝで御質問いただきまゝだが、数字的なものでござい  
ますので、取り寄せまゝで明確なところを御報告申し上  
げます。

市長（本間譲君） 駅前交番の移転先の件でございま  
すが、このにつきましては、いろいろ警察署の方でもし  
心配しております。鉄道といろいろ折衝してゐるんです  
が、現在九通の勘にヤマサ、という油の鉄骨がございま  
すね。そこにとつてということで進んでゐるわけですよ。

ところで、この間電化の起工式のとときに千葉、鈴木局長  
が参りまして、私と敬言警察署長さんと局長さん、議長さん  
も立ち会ひまして、話し合ひまして、現在ある駐在の場  
所が、いいとやないかということ、で局長に話しまゝなら、考  
えて、みようとつて、早くいきまゝを付けることになつ  
ておりますが、最初には九通の前のヤマサ橋油の鉄骨の

前にやるということでございしますが、あそこでは降りてくる客をみるゝに都合が悪いというところで私も現在ゐるところにということで要望しなところ至急考える。そういう音心にそつてやりないということでは帰らな。

市としては、現在、ヤマサという油のところは、観光案内所  
を持って、いこうというふうな考えておるんですが、観光案内  
内所々ところを、広場にすることが、自動車、交通にも  
いいことだと思ひ、まして、現在、駐在所の位置に、数ヶ所  
が、できるとすれば、そういうふうにならない。そうすれば、観光  
案内所にくるお客様が、自動車、走るところを、横切ら  
ずに歩いて、こらへますから、そういうことで、考えております。  
管理局長さんが、こらへて、実情を、みまいて、なるべく  
意に添うようにしたいというふうになっております。以上  
です。



・ニニ番(君塚喜三君)一問に対しては現在、計数的なこと  
なで、調べ中であるということでございます。ただ今  
の問題につきまゝ申上げざるわけでございますが、こ  
補正に組まねなということ。補正という性格のものなん  
だ。建設敷地の見通しもつかないのに九十万も支出  
が、いかにも補正という形によっておさねなということがい  
にもいかげんなものではなかつたかという気がする。ニ  
点私どうも遺憾に思う。

ーから最初はまだ少く順調にいくつもりで、こ  
ふうになつたという。善音に解釈してなるべく、そ  
うことのないようにということ。その点につきまゝでは  
了解いたします。

・ニ五番(荻生田七郎君)簡単に二つほど御質問申し上げ  
ます。

衛生費中、ゴミ捨て場、整地工事、請負費として  
 三万計上されてゐる。これは説明によりますと、昭  
 和橋のあつたゴミ捨て場を整理するということです  
 が、これは先ほど通告質問で質問されたところの  
 新しいトシカイ処理場の建設を前提としてゐる工事で  
 あるか。第一点。

第二点は、教育振興費でありまするが、五十七万三千円が  
 減額と相なつて、ありまするが、これは説明によりますと、  
 国庫補助がだめになつたから減額した。この拝聴  
 したうでありまするが、この予算化の場合には、あら  
 かにその果を漏れて、助成されるという見通しのもと  
 に編成されるのが常識であると思つてゐるが、ありまするが  
 いかなる理由で国庫補助がだめになつたか。その結果  
 この予算化の施設費がだめになつたか。以上二点について

お伺いいたしたい。

・助役(小虫武男君)衛生費の清掃費ですが、ゴミ捨て場  
・整地費三十万でございすが、これは今回、施設とは  
・関係ございませぬ。間接的には関係あるかもしやま  
せんが、御案内でしうが、現状は非常に広い場所で  
・しかも、自動車で持ち込めますで、こちらで考えて  
・おるよりも、順序正しくいけば、問題はなিনですが、  
・とかく道をはずして捨ててくるといふことがあるわけ  
です。ときどき、ブルドーザーで広げまゝで、従来まゝで  
・おりまゝで、今回、三十万もそういふことに使う予算で  
ございます。

・教委庶務課長(千場伊右エ門君)教育振興費関係の備  
・品購入費五十七万三千円、減でございすが、これは、理  
・科設備、当初、神余中学校、豊房中学校、こゝを各

十五万づつ国庫補助を予定したものでございますが、果  
 の方のいろいろの基準につきまゝして、その基準よりも設  
 備されているということとで、その補助が神余中学校が十  
 万、豊房中学校が十二万というふうになつたわけに  
 ございます。そうすると、最初、国庫補助を予定した  
 のが三十万だつたところが、二十二万になつたという關係で  
 その分だけ結局、市では二分の一の補助でございまして、  
 で、その分を組まなければならぬということとで、歳出に  
 倍額を組んだわけでございます。そういうわけで、国庫  
 補助の方が減らさるゝたので、歳出の方も減さるゝた  
 というわけでございます。

それから、技術家庭科の設備の四十二万八千円の減の關係  
 でございますが、これは、私の方で、最初、予定したのが一半と  
 神余中と西岬中各十万づつ、国庫補助を考えていた

わけでございます。やはり設備の基準、関係上、一中は必要ないのだというところで、神余中五万、西岬十万、合計十五万の認めらうないということ、で、国庫補助三十万申請したところ十五万の認めらうないということ、でございます。

技術家庭科関係の補助が三分の一ということ、で、大分の方では十五万の三倍を予定して、四十五万ということ、であります。で、その差額が、ここで減じなければ、でございます。二五番（萩生田七郎君）大体あんなふうになることはわかる。ニうーな場合にあらうか、い、県の方を打診し、県を通じ、て国を打診し、この助成が大体もらえるということ、で、大体予算化し、議会に提案して認めるというものが、常識だ、と思うんですが、ニうーな事前打診というものは、やうな、かつたわけですか。

・教務庶務課長（千場伊右衛門君）予算を立てるときは、まだ

こゝがはつきりないでございまして、大体設備基準  
の総額というものが各学校に示さばいまして、それに対して  
前年度の充足率というものが出ておりますので、国  
方は理科の振興法の関係でいきますと、大体七〇%  
以下のものについて補助をするのだというふうなことを  
果からいわれるわけなんでございします。

産業教育の方もやはりそれに近いものが示さるわけ  
でございします。

私の方で、その基準にどの程度までいつているかという  
学校の現状をみまいて、大体、こゝも補助がつくだ  
ろうというところで私の方で申請します。

そうすると、それが予算を組み終つて、七月初  
八月頃になってはつきりなものがわかつてくるわけで

ございまして、どういしても、予算を組む場合には、やはり見込みで組まなくてはいけないという現状でございます。一番(吉田勇治郎君)に三伺います。今質問におまゝに、九ページの諸費、四万五千元、那古駐在所改築寄付金でございますが、私は今までの質問とおもむき、異にしてお伺いしたいと思ひます。ということとは、市内の駐在所は、どこどこが改修必要の箇所であるか、それは、いつ頃おこしていくか、教えていただきたいと思います。

それから、昭和橋の予算でございますが、この予算が、割増も削減されていくんですが、この理由は、どういうことですか。

それから、ミニ音楽コンクール会場報償費、四万五千元組まれております。

質問、伝えるところにより、非常に費用がかかっています。



父兄負担が莫大らうんですが、もうクー考えである程度、増額をして特定、一校ばかりでなく、こゝろ及ぼす影響は全市音楽に及ぼすことが望ましいと思ひます。で、この点についてもうクーめんどうをみる意思があるかないか、教えていただきたい。以上であります。

市長(本間譲君) 吉田議員さんのお尋ねに對しまして、駐在所の政策の問題でございますが、こゝは市の方で計画を立ててはまゐらない。県警と館山警察寮が話し合つて、県の予算を取つてから、ぜひ頼むということをやつていますから、市の方ではどういふ計画は持つておらないか、いながら、現在言われておることは、西岬、豊房、そんなに警察寮の方ばかりやつておるわけにいかないからなるべくお手をわうかに頼むという程度です。

土木課長(新井重助君) 御質問の昭和橋のことでございます。



すが、昭和橋は、千三百万円で設計いたしまして、入札にかけました結果、予定価格の八割までが有効入札というところで、やったところが九百二十八万で落札されたわけでございます。その他、照明設備をいたしまして、それが、二十四万で合計いたしますと、九百五十二万。その不用額をここに残して、わけでございます。

・教育長(押本禧悦君) 館山小学校の音楽コンクール出場費、償費についてお答え申し上げます。

いろいろコンクールが県下でこの地区でも行なわれていますが、大きなものは千葉市でたくさん行なわれる機会がございます。これには一々市費として補助すると大へんな額になるわけでございます。今までのところ、市費としては、出費しておりません。

ただ今回の館山小学校の音楽コンクールというものは、東

その人員は六十人付きという先生、大人、大体、学校の西女  
望を聞きますと、九万かかるのだそうですね。

今までは県下の場合には支えておりませんでしたが、千葉県下で最優秀になり、東日本ウコンクールに出場するということはめったにないことでございますが、日頃より努力とそうして成績が非常によいということに参るわけで、大きくは教育奨励というような面で特に金額おせばさらによいでありますが一応半額もお願ひしてあるわけであります。

○一番(吉田勇治郎君)駐在所の件でござりますが、一応市長さん御答弁は了としますが、もう少し聞きたいことがござります。

駐在所は、市の財産になっているところがあるのでありますが、その点いかがですか。

○財政課長(長谷川広治君)お答え申し上げます。旧村のうち館野を除きまして、五カ所が市有の建物になっております。私の方で計画を立てておりますのは修理については、計画をいたしておりますが、新築等については、その費用も大きい関係から、渠敬告及び敬告察署と、連絡そういったものを考えまして、年々改築或いは新築をしていくというふうなことでございます。

○一番(吉田勇治郎君)この問題は予算関係でなかなかむずかしいということではわかりましたか、一応申しました

特に身分かな例を取っては失礼でございますが、西岬  
 う駐在所に入っていくと戸があかない。そり前に鳩山  
 荘・国民休暇村・私の家になんていけば物置だ。  
 あゝでは防犯の面からいっても何からいってもああいう  
 ところに置くくという二とはいゝびない。私は何回か声  
 が小さいから通トてなかつたかもしれせんが、西岬の  
 駐在所の改築は要望をしてゐるものでございます。  
 ああいう環境にありますので、できたらすぐに今度  
 も四十万とあるから西岬と那古と間違えてあると思  
 つて考え方をたゞしなわけですが、簡單でよろしくう  
 ございますが、どうしていただけますか。御答弁いただい  
 れば結構でございます。

昭和橋の件ですが、そんなにまけまゝに入札でも落  
 ちるようなことはございませんか。

それだけ聞けば結構でございます。それとも設計が過大であつたのか。その点も合わせて教えていただきたい。土木課長（新井重助君）お答えいたします。設計は基本より単価表というものが、こういう仕事をやるときに、こういう材料を使え、そういう指示に基きまして、設計をいたしてございます。過大に見積つたものではございません。なお、八割弱の線で落れましてございしますが、設計がえいきまつておりますので、設計書によってやりますから、落ちるようなことは決つてございません。

どうぞ御安心いただきたいと思います。

議長（田中祿郎君）先刻二番議員、御質疑に対し、収入役より答弁を求めます。

収入役（免戸資君）二番議員さん、先ほど衛生処理手数料の収入状況についてお答えいたします。

三十九年度から四十年度に未納として取り残さるゝ  
た手数料のうち収入にかりまゝなものを申し上げます  
六月に一万千六百四十円、七月に八千七百円、八月に六  
百六十円、九月に四十三万九百三十五円、十月に六千七百  
十円十一月に七十円合計四十五万八千七百十五円で  
なお未納が六万三千三百九十円ございます。

なお、現年度といひまして、十一月末現在で収入に  
かりまゝなものが二百三十五万四千九百三十五円、以  
上でございます。

ニニ番(君塚喜三君)ただ今収入役さんから詳細にわたつて  
御報告いたされたわけでありますが、これは一体、どうい  
う形において収納なさっておりますか、ということとは、予  
算書には、過年度未収金というものがあつておらない  
これは会計法上、そういうものでよろしいかどうか、私う

考えでは、予算書というものは、議会の承認を得て成立してあるものである。従つて、それに対してかつてな解釈で名目を付けて収納するということは、会計法上、間違ひではないか。常識的に考えられますが、この点、再度お伺ひたいです。

・収入役(実戸貴君)三十九年度の決算をみますと、収入未済が五十二万にガーということになっておりまして、御指摘のとおり、当初予算をみますと、過年度分としては、ございません。一カー市や歳入は歳出と違ひまして、収入されるも、未済は収入にしなければなりませんので、仮りに予算にございせんども、これは収入にないというわけにはいかないわけでございまして、歳出の方は、予算になければ、もちろん支出することはできないのであります。が、歳入につきましては、必ずしも予算に計上し



ていないからといって、そのまま収入がないというわけには  
参らない。こういう関係でございます。

・ニニ番(君塚喜三君)おつゝるとあり、収入がないわけにはい  
かない。当然であろうと思ひます。

どう様な形で収納したか。当然、前議会において指  
摘を受けてゐる。

過年度未収金としてゐないという指摘を受けて  
ゐる。当然、今議会にその処置が取らなければなら  
ないはずだ。それがなされていらないから、私は、こゝろで  
御質問申し上げるわけです。いかがです。この点。  
助役さんいかがにお考えになります。助役さんの御  
答弁求めます。

・助役(小出武男君)今、収入役から申し上げますように会計  
法によりまして、収入は予算外でも、受けらるという



ことは常識でございます。

過年度収入という目は設けません。衛生手数料という項に受け入れてあるらしいんですが、過年度収入という節は起りませんで、その所属する目の衛生手数料の中に包含されておる。決算をあらうにしなければおわかりいただけれると思いますが、普通、そうやるべきだろうと思ひます。ニニ番（君塚喜三君）かような処置でもいいということでございますか。そうしますと大へんなことが今後起らないければ結構なんです。がよろしうございますね。ということとは私がたまに、そういう滞納額があることを知ったから、この問題を取り上げた。知らなければわからぬままにいつてしまう。

納めなくてもわからない。そういう形でよろしうございますか。そういう問題も起り得るということとは考えらる。

まじょう。

助役(小出武男君)今申し上げまゝは受け入るう方式でございすが、未納になつたもうがいわゆるたまつておるという場合には、それとは關係なく督促に入りますので受け入るもうがなにかうといつてほつておくわけにはいかない。現実における調定でうせていきますから、滞納は滞納で残りますから別個の徴収方法においてやっておりますから、残ることはないわけです。

ニニ番(君塚喜三君)地方財政の予算編成上の大綱というべきものが指示されておる。

あらゆる角度から検討して、その収入というものは上げなければならぬ。それによつて予算を編成せよというところが地方財政法の中に入つておる。それからいくと、おかしなところはないかという考え方が出てくる。当然にこ

いったものは、議会において更正せらうていいんではないか。  
いかがです。

・助役(小出武男君) 私細かい条文ゆません。が、条文に書いて  
ございますが、結局こういうことですが、過年度収入が事  
前に予想さゆる場合になてまえて、過年度収入と  
いうものを設けるべきです。ところが、設けない場合にそ  
ういう操作が会計法上できておるわけですから、普通  
過年度収入が予想さゆる項目があるわけです。それに  
ついては、過年度収入という節を設けるのが正しいとい  
うふうに考えております。

・三番(君塚喜三君) そうしますと、過年度未収分は、はつきり  
してございますね。年度がかわるときに、残る滞納があるか  
わからないはずはない。年度内に徴収できるかどうかかわら  
ない。ということは、裏をかえせば、取れば取る、取らなければ

取らないという考え方に立つておられと解してよろしいです  
か。

・助役(小出武男君) 今までのやり方から申しますと、税金関  
係は過年度収入として、予想されておりますので、過年  
度収入という節を設けております。

手数料については今までやってないで、ほとんどのつてありま  
せんが、これは考えまして、そういうものが予想されるば今後  
付けておいてもいいと思ひますが、ただ付けてないからとい  
つてその金がかどうかに入り込んでしまうという事はない  
と思ひますから、誤解のないように願ひます。

・ニニ番(君塚喜三君) 念のため、地方財政法第三条第二項  
「地方公共団体は、あらゆる資料に基いて、正確にその  
財源を補足し、かつ経済の現実に即応して、その収入を  
算定し、これを予算に計上し、かけなければならない。」

資料について正確に財源を把握せよということになっておる  
はつきり滞納額がある場合、当然予算書の上にのつけてや  
るべきが至当ではないかと思う。いかがです。

議長(田中祿郎君)暫時休憩いたします。

午後 三時三十七分 休憩

午後 三時五十四分 再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

助役(小出武男君)先ほど君塚議員に私節を設定してい  
ないと申しましたが、本件は収入の当時節を設定し  
まして、過年度収入にしております。

節は設定していなくてもできるんですが、本件は、節を  
設定して受け入れています。大月にそれで御了

承願います。

・収入役（元戸貴君）なお先ほど過年度滞納繰り越し分についてどういうふうにするかというお話でございすが、  
 これは五月三十一日が経過いたしますまではまだ過年度  
 と言えども、入ってくる見通しがございすので、入って  
 くる限りは取るのでございますが、五月三十一日が経過い  
 ちますと、六月一日になります。三十九年度、未納額  
 五十二万九千三百四十五円というものを調定いたしまして、  
 これが収入役の方に通知が参っておりますのでございす。  
 よって調定伝票によりまして、滞納繰り越し分が幾  
 らあるということがわかりますので、自後のものは未入金  
 に従いまして、それだけの手続をさせていただきます。

取らない分につきましては、督促をするとか、そういういっ  
 うな方法について処理をするということになっております。

議長（田中祿郎君）一番議員の質問に対する西岬駐在所の答弁を求めます。

市長（本間譲君）西岬駐在所の件につきましては、実は警察署長から話が来たわけですが、

警察署の方でも県からの補助金がきまらない、市の方もあり、幾つものことは困難だと思っております。おそらく来年度にはできると思っておりますから御了承願います。

一番（辻田実君）三点についてお伺いしたいわけですが、

第一点は水産振興費のうち十九節漁協合併推進委員会の補助金というところがあるんですが、この点については額が九十万ということになっておるわけですが、額が多いうてございますから、県の補助金も半額が支給されているということではございしますけれども、農協合

併々ときにはかなり詳しいことを報告されておられるが、通協合併がどう程度進んでおるか。これは事務費部分ということでございますが、その点について通協合併の進行もなかなか困難性があるようでございますので、それらについてもうさくわく御説明を願いたいと思っております。

それから一七ページ教育総務費の中、南高校分校の運営分担金でございますけれども、当初予算の中にも組み込んでおられたわけでございますけれども、その中でも若干質問があったように記憶しておりますが、そのとき四十万に対して三十二万ということでございますが、今度、このように追加で組み込まれたわけでございます。

前から学校へ分担金に対する額が大きいたいということが言われておることにもございますので、こういうものを追



加て組まなければならぬ市や義務性。そういうものはど  
の程度に把握してあるか、再度、その点についてお伺いいた  
したいわけでございます。

それから一九ページ、社会教育費のうちいろいろ報酬  
の分り増が一萬四千円あるわけでございますが、前回の  
条例改正によって報酬額が上った分でございますけれども  
ども、ここに分館書記報酬というものが書いてあるわけ  
でございますが、現在の分館書記は何人おつてどのよ  
うな仕事をされておるか、その点についてお伺いいた  
いわけでございます。以上、三点について。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）漁協の合併の補助金  
につきましては申し上げます。

漁協の合併はやはり農協と同様小さい規模の漁協  
をこの際規模を大にいたしまして合理的な組合

の運営をはかると同時に、庶民の福利増進のために、仕事を大いに充ていかなければならぬという目的を持ち、まして国並びに県でもきたる四十二年の三月廿まで、の間を一応合併達成の目標に基きまして指導すを考へておるわけでございます。

市といふにまゝても、やはり、この指導すにうつりまして、市内の十五の組合が現在ございますので、この十五組合の合併につきまゝして、この議案が通りまゝにあら、つきには、早晚協議会を作りまして、漁協合併の推進をはかつていきたい。

それに対して、まして事務運営費といふにまゝして、一組合三万円、割合で県の助成金がございます。それにさらに同額のものを加えたものを予算支出するよう、にという県の指導でございますので、四十五万に同額

の四十五万を加えまして、九十万の委員会へ、補助金として計上いたるわけでございます。

この金は、今、申し上げましたとおり、目標でございます。四十二年の三月まで、間にいろいろ使用いたしますところの諸経費に充てていくたいということとで考えておるわけでございます。

・教委庶務課長(干場伊右エ門君) 教育費、事務局費に組んでおります。南校、房南分校、負担金の関係でございますが、南分校を作るときに条件といひまして、人件費は県で持ち、施設運営費等は、その建てたところで負担するという契約が入っておりますのでございますが、三十九年度は四十万をふりました。が、四十年年度において補助金、二割削減ということとで三十二万円を計上いたるでございますが、実際に分校

を揮毫する上において、どうしても四十万必要というところとで、県からは、そういう契約があるうで出せない。八万を又えから負担しなければいけないということになりまして、この八万をお願いした次第でございます。社会教育課長補佐（地引秀夫君）分館の書記について御説明申し上げます。分館が十館ございまして、一名づつでございますので、十名でございます。事務は、庶務的な事務をもちっております。

（一〇番）（辻田実君）第一点についてはわかりました。この問題についてきまして、農協合併のときもそうでございます。それけれども、要するに、県の方から補助金を付けたので、市の方から追加で組まなければならぬという消極的な態度で通協の合併を進めておるのでは、いつになっても合併できない。

むしろ、出すべき金は、当初予算で市がかり出して、市  
がやるんだ。足りないものは、県から持ってくるんだという  
ことでやらないとせっかく軌道にのりようという問題に  
も水をさすように思われるわけでございます。

かような段階にきている問題でございまして、来  
年の予算編成時でも、ございまして、その点は来  
年度予算に盛って十分に市が経済援助もで  
きるように配慮して、こゝうな膨大な金が補正で  
組まなくてもいいように積極的な指導をしていただ  
くようお願いしてやめたいと思ひます。

第二点につきましては、教育問題でございまして、懐  
重に、そのような義務的な問題があるとするならば、  
補助金については、二割削減だからといって、二割減  
を計上し、また復活するということでは、非常に軽率

過ぐると思つて、こゝ点については、そういうことゝないよ  
うに当然おさなければならぬものについては、当初予算  
で、機械的に削減するのだから、二割削るということでは、何  
でもやつてしまふということゝないやうにお願いしたいと  
いうことでございます。

分館の書記は十名あるということでございます。するけ  
ども、一般の人ですか。それとも、市に取買ふ人が兼  
務をしてゐるんですか。

社会教育課長補佐（池引秀夫君） 学校に教頭先生で  
ございます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君） 御質疑なしと認めます。

議案第八十四号は、討論省略原案通り可決い  
たすことに御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって議案  
第八十四号は原案通り可決されました。

日程第十議案第八十五号、議案第八十六号、議案第  
八十七号を一括上程いたします。

一四番（志村信作君）議案第八十七号の館山休養施設  
特別会計について伺いたいと思います。補正いたします。  
二十八万六千円の追加の内容はどういうものに使われま  
すか。

商工観光課長（小沢正治君）お答え申し上げます。

従業員の奉仕奨励金と申しますのは、現在、鳩山荘  
の従業員に對しましては、当然、市役所と比較いたしま  
して、正式の就業時間以外の勤務が非常に長く  
なるわけでございますが、これに對しまして、本採用取

員に付しましては、超過勤務手当及び特殊勤務手当と  
 いうような形で条例による手当や超過勤が出ておるわけで  
 ございます。こゝらの取員と一緒に、時間外を  
 勤務いたします賃金取員に付しまして、一応バランス  
 を取るために、月額二千円の手当的なものを取  
 るわけでございます。

こゝが本年中途で正規取員の新陳代謝がございまして  
 臨時取員の補充の関係で当初計画いたしまして金額  
 が約二万六千円程度不足する見込みでございまして  
 で、計上いたしております。

なお、賃金につきましては、期末手当の関係でござい  
 ます。一四番（志村信作君）わかりました。総額二千四百六十四  
 万八千円でございしますが、これだけあれば、四十年度い  
 いでございしますか。



・商工観光課長（小沢正治君）このあとこの補正だけで明年の三月  
いっぱい準備していきなにと考えております。

・四番（志村信作君）了解もう一つ、関連になります。が、厚生省  
から借りてあります。お金ですが、この前あたりは元金  
と利子とちやうどとんについています。が、もう元金の方が  
幾分多くなろうと思えます。が、どうらいう支出になるか。  
おわかりになりますか。

・商工観光課長（小沢正治君）昭和四十年年度で元金百三十五  
万円、利子が百二十八万八千円でございます。

二は、いずれにいたしましても、元金利均等償還でござ  
いますので、合計の二百六十四万足らずの額を毎年  
昭和五十年年度だと思えます。が、それまで同額返済と  
いうことになります。

・一〇番（辻田実君）二点について伺います。

八十五号の歳出の総務費。この中で豊房診療所の臨時医師の雇い上げ料というものが出ておるわけですが、現在その点について補充がつかない。この範囲内でもって、次々先生まで、そのまゝいくうかどうか、その点についてお伺いしたいと思います。この点についての見通しについてお伺いしたいと思います。

それから八十六号議案の中、歳出の事業費の中で工事請負費二十八万出ておりますが、施設補修工事費ということですが、内容の説明がなかったように思いますが、どのような工事か、これを伺いたいと思います。

保健衛生課長（池田亮山君）お答え申し上げます。今回、賃金の追加でございますが、三カ月分を追加してございます。三カ月分と申しますのは、四十一年の一月いっぱいまでを

込んでおるわけでございます。

正規医師の補充の問題でございますが、鋭意交渉中でございます。

大体予定されておつてすでに派遣の日の問題というところまできまつておるわけでございます。大体一月の半ばということに医者の派遣がみられるということでございます。いま、なお一月いっぱいのもうまで計上しておるわけでございます。

衛生施設課長(吉田耕一君)と畜場費の中の事業費の工事請負費についてお答え申し上げます。

二十万二千円をお願いいたわけでございますが、この修理箇所としてと畜場内の本屋からひさしになっておる部面がかわらとかわらうと下にございます。なる木の一部、そう、たもつ、さうかいと申しますか、その修理ま

いたしますことと一部裏側。壁。そういふ面々補修を  
合わせていたらない。こゝように考えておる次第であり  
ます。

一〇番(廿田実君)まず第一点でございますけれども、私  
は前任の先生がやめられたあとすぐにもという話を  
聞いておたわけでございますけれども、それが延びてお  
るようでございますが、その点について聞くところによいま  
するといろいろな問題があつて前任の先生もやめられ  
たそうでございますけれども、なぜその過程において市  
当局なり、そこにおいて豊房地域の住民の問題、さら  
には豊房診療所が設立された経緯、そういうものを  
判断しながら説得工作をして本人もいろいろな事  
情があつたとは思ひますけれども、やはりあそこには  
者がこない。次の医師がこないということとは、全くあつた

けの施設をかけてむねになつてゐるわけでございます。現在も臨時の先生がやっておるからいいというものの、これとて大へんなことだと思ひます。そう長くは続くものではないと思ひうわけでございます。

その一、点について、簡単に本人の方から申し出があつたからさうでございますか、という形でゐてゐるから、あとからすぐ補充がつくということでもって、現在まできておるようでございますけれども、一か一ながら、この臨時の先生をやめさうと、補充がつかないと、いうことについては、前から相当苦勞されておつたのではないかと思ひうわけでございます。そういう点についてもう、一、真剣に住民の問題、豊房診療所の設立という問題を考へて慎重に取り扱つたらどうか、その点について、私はお伺ひしたいと思います。

ニに三カ月位たてば来年の一月になれば、あとう先生う  
 補充がつくという樂觀的な見方をしておりますが、  
 私はないかな困難ではないかというふうに思っておるわけ  
 でございまして、三カ月形で補正予算として、三カ月  
 分位——かくいせんが、三カ月という点についても、提案の方法  
 について、一ツかりに見通しの中で立てていただくたい  
 わけでございしまするけれども、どうなのか、お伺いしたいと思  
 います。

第二点につきましては、屋根がわらについて、視察した  
 当時から、相当大幅に修理をしなければならぬという  
 点、再三指摘されておりましたので、遅きに失した位  
 でございしますけれども、先ほど、条例改正で、使用料  
 の大幅値上げをいたしましたわけですが、その金をそのまま補  
 修に回わらないことは非常に賛成であるという

ふうに感得しておるわけでございます。ここでお伺  
いしておきたいのは、ほかの地域では、と場料というのは、確  
かに高かった。しかしながら、ほかの地域においては、実際  
の業者なんかいてみると、牛なり豚なりと殺したとこ  
ろ、血を千葉大学で買ってくれて処理さるから、四百  
円なり、五百円、という手数料の半分以上が補てんさ  
る。館山市の場合、そういうものは捨ててしまふとい  
うことがあるわけでございます。そういう点については、非常  
に負担になるわけでございます。

今後やはり黒字が出ると思うわけでございます。け  
ども、それらについては、施設なり、さらには、家畜の振  
興とか、そういう方に収益金を回わすっていただけ  
るものかどうか、そこいらについてお伺いしたいと思  
います。

・保健衛生課長（池田亮山君）医師の雇い上げの問題でございます。診療所の医師は千葉医大から申しますと豊房診療所派遣遣という言葉を使っておるわけでございます。そこに食い違ひが出てゐるわけでございます。

実は群表が出さぬまゝで、ただちに臨時に切りかえた。引き上げたあと補充の見通しもつかないで軽率に取り扱つたという意味ではございせん。

群表が出さぬまゝという方は引き上げる方法が講じられなわけでございます。

二ヶ月が過ぎまして、一ヶ月間お願いしまして診察に当たつていただいいただけでございます。その間種々千葉医大とも折衝いたしまして、大体派遣の日までまわつておるわけでございます。教室内部、都合でしばらく待つていただきたい。



旅費はするから一ぱらく待つてくれということでございます。  
十二月当初に旅費さける予定でございますが、また教  
室の都合でもうちょっと待つてということ。来春まで待  
つてくれという話もついてあるわけでございます。

四十一年の一月いっぱい位までの臨時医師の予算を  
追加したわけでございます。それでまかなうという考え  
でございます。

衛生施設課長（吉田耕一君）と畜場の件につきまゝて、お答  
え申し上げます。

値上げの根拠は赤字だからというわけではございませんで、  
現在までと殺料金というものが低かったということ。で、  
館山市の場合、二十七年頃に出た単価が踏襲さ  
れておるということ。今回の改定で増収となるべき部  
分については、場の整備に重点を置いて進むという

ことが付帯されて認可になったわけでございます。増額  
 された部分につきましては十分活用していくという考えで  
 あります。なお、家畜の増産等の面につきましては担  
 当課でございます。農林関係の方と十分連絡を取りま  
 してと畜場としてではなく、市自体として、面で私どもも  
 家畜の増産というような面にも御協力申し上げていき  
 たい。このように考えておる次第でございます。

一々番(辻田実君) 第一点でございますが、課長の方から御  
 答弁を聞きますと、だいぶ努力しておるようでござい  
 ますけれども、言葉は非常にきよいでございすけれど  
 も、実際、内容的には、それだけ真剣に取り組んで  
 いただいのかどうかという点について、疑問を持つわけで  
 ございます。それだけの熱意があれば、特別に話をし  
 て、人が本当にきまつて着任するまで位、一月でなく

ても二月三月説得する位々氣持があつてよかつたうでは  
ないか。そういう点、あまり輕率に扱かわけておつたうでは  
ないかというふうに思うわけでごままして、二以上、討論  
しても、一ようがありませんで、もうちよつとあの建物があ  
あつてできたということとあう地域におきますところの医  
療状況というものを考えて真剣によつていただきたいと  
いうことを要望し、まして打ち切りたいと思ひます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 御質疑なしと認めます。

議案第八十五号、八十六号、八十七号は討論省略原案  
とおり可決いたします。御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よつて議案  
第八十五号、八十六号、八十七号は原案通り可決い

たさいます。

議長おはかりいたします。ただ今市長より議案第八十八号昭和四十年年度館山市一般会計補正予算が提出さいます。

二。際、こゝを本日、の日程に追加し、直ちに議題といいたいと思ひます。こゝに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。

よて議案第八十八号を日程に追加し、議題とすることに決定いたします。

議案を配付いたさせます。

(議案配付)

議長(田中祿郎君) 配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案第八十八号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第八十八号 昭和四十年年度館山市一般会計補正予算

(第四号)

議長(田中祿郎君) 市長、提案理由の説明を求めます。

(市長登壇)

市長(本間謙君) ただいま追加議案提出について御承認を得まして一般会計補正予算案について提案理由を説明いたします。

本案は今回安房中央土地改良区が渠営でもって旅行中の中央ダム工事に対する地元負担金納入のため資金として農林漁業金融公庫から借り入れについて必要条件として関係市町村の損失補償を求められております。

本事業は、館山市にとりまゝでは、農林行政上、ひいては農民の福利を増進するためにもつとも緊急なかつ、重要なものでございまして、土地改良区の実情に照らして、要請にこたえて補償を行ない、工事の早期完成を期すべく本案を提出した次第でございします。

詳細につきましては、関係課長より説明申し上げます。よろしく慎重御審議をいただきますようお願いいたします。

農林水産課長（伊藤幸太郎君）ハヤハ号につきまゝて内容を御説明申し上げます。

まず、表によつて御説明申し上げます。御覧いただきます。

本件は、ただ今、市長より申し上げまゝとあり、女房中

水土地改良区が中央ダム建設費の地え負担金を納めるための資金といたしまして、農林漁業金融公庫から長期債の資金を借り入れておるわけでございます。また、四十年度におきましても、千六百九十万円の予定見込みで現在進めておるわけでございます。今回農林漁業金融公庫の要求に対して、今後借り入れるためには、関係市町村の損失補償をしてもらわなければ、いろいろ実情からいたしまして、非常に困難だという実情が生じたわけでございます。

土地改良区におきましても、役員さん一同、いろいろ苦心はされておるわけでございますが、そういう公庫から要求にまゝして、関係市町村の損失補償はせむこの際、お願いしたいという強い要請が改良区からも提出されておりますので、市といたしまして、いろいろ検討いた

しました結果、本案を提出いたしまして、議会の御承認をお願いいたしたいということで提案申し上げたわけでございますが、その内容といたしましては、昭和三十三年度からこの工事が進められておりまして、四十年度の借り入れ見込額を合計いたしますと、五千三百十三万五千円に上るわけでございます。

この額に對しまして、いろいろ借り入れ条件がございますが、借り入れ条件にしまして、最終償還期間の到来後におきまして、借り入れ金について損失が仮りに生じた場合は、損失分を関係市町村が補償するのだということでございます。

つまり一例を申し上げますと、この表にもございます通り、三十三年度におきまして、四十五万円借り入れております。利率その他につきましては、この表のとおり



でございますが、今申し上げました条件によりますると  
三十三年度より借り入れ分の最終償還期限と申しま  
す。昭和五十三年十二月五日が最終の償還期限で  
ございます。

五十三年十二月五日の期限におきまして、仮りに四十五万  
円のうち若干の未償還分があった場合におきまして  
は、この未償還分につきまゝては、関係市町村が補償し  
ようというわけでございます。

それにはいろいろ、ここにも書いてございます通り損失  
補償の時期とか、或いは損失補償の額、或いは期限  
の問題、それぞれございますが、ごく簡単に申し上げま  
ますと、以上のようなことで損失補償の議決をせ  
ひお願いしたいということでございます。

なお、相当額に上る問題でございますので、万に一つ、

市町村がこの時期に至りまして、補償せざるを得ない  
というふうな時期は少なくとも、現実の問題としては、  
一応ないものと、またないように土地改良区はもちろん  
でございますが、指導機関、関係する果当局におきまして  
も、十分に指導監督いたしまして、決して関係市  
町村には、御迷惑をおかけいたしません、という一つの誓  
約のもとに、この議決をぜひお願いいたしたい。

これは、強い改良区並びに果当局等の誓約により  
まする提案でございますので、その点も十分お取り  
取りいただきまして、この仕事上の重要性からいたしま  
して、ぜひともこの議案を御決議をお願い申し上げ  
たいという次第でございますので、よろしくお願い申し上  
げます。

。二九番（鈴木市蔵君）主管課長に一つだけ伺ってみないと

思っています。

ただ今説明の中にも市町村に迷惑をかけないということになっておるといのは、契約書が何か取りかわっておりますか。友納知事と。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）ただ今、御質問でございますが、果当局と文書を取りかわるはできておりません。

ただ今申し上げましたとおり、土地改良区、理事さんの連名のもとで協定書を取りかわっております。

決して御迷惑はおかけいたしません。万一、このような事態が生じた場合については、今後でき上がった後におきますところの用水、中央用水の使用については、一応市長さん、裁量下におまかせして、その使用について御相談を十二分にやって参りたいので、ぜひお願い申し

上げないというふうな一応の覚書を取りかわっております。  
いま一つは御決議をいただきまゝなものを、果当局とも  
一応この問題の裏づけ的な話合いを早晩いた  
さないという考え方をあります。

一番(吉田勇治郎君) だが今上程さいます債務負担行為で  
ございますが、この中央ダムについては三十三年以来の  
懸案であつて、当然、これでやらなければ完成できないといふ  
ものであれば、めんどろ見てやるべきが本来だと思ひますが  
だが、一応中央ダムもあり古い案件で過去に  
状態とか、現在はどうなつてゐるか、それから資金の配分  
計画、各人の負担はどうなつてゐるか、その収納状況とか  
収納状況が悪いから、こういうことに相なつたんでしようが、  
これから収納状況はどういうふうなやつていくか、  
そういうようなことをお聞かせ願ひたいと思ひます。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君)にだ今の御質問でございますが、中央ダムは現況というふうなことでございますけれども、御参り考までに申し上げたいと思います。

御承知のとおり、中央ダムの予算、決算のことにつきましては、その工事費の二五%も受益者が負担することになっておるわけでございます。でございますので、二五%の分担金の納め方を中央土地改良区がすべてまかなつておるわけでございます。そのうちの二〇%をただ今提案してございます金庫の資金を長期借り入れしまして、あとの五%を各受益者ごとに負担をいたしまして徴収をいたしておるわけでございます。

もちろん五%のほかに事務費、償還金に對します利子、それから償還期限の到来いたしまして元金、そういったもの、償還分を含みまして五%のほかに加えまして賦

課金を徴収しているわけでございます。

かようなことでございますが、なまたま最近う賦課金の徴収状況がかんばしくございませんで、例えば三十九年の例を申し上げますと、約六六%弱でございます。

かような状況でございますので、お話にもございまいなとあり、やはり中央金融公庫でも成績が悪いため、一つ、こへとして、市町村の損失補償をしなければならぬ。或いはまた国、県等々の立場から申し上げますと、この機会にてこへする意味で市町村が損失補償の議決をいただいて、そうして市町村がこへ事業に對し、こへだけ、熱意と御協力によって進められているうだという、こへ誠意の現わゆる意味からいたし、こへでも損失補償をして、こへという意味もあるわけでございます。それから、今後の賦課徴収の面でございするが、こへは





農林水産課長（伊藤幸太郎君）最終的には、そういう比率を  
持ちこたえて、考えておるわけでございます。

一番（吉田勇治郎君）なお伺います。今こゝで示さなければ  
の債務で万端できる。三というふうに解釈してよろしゅう  
ございますか。

それとも、まだ、その他に起債を起さなければ、仕事は進展  
できないのだと解釈していいですか。

農林水産課長（伊藤幸太郎君）ただ今申し上げまゝとおり  
この借り入れは四十年間までの分でございます。

お手元にさへ上げてあります資料によりまゝでも、四十四年度を目標にしてこの事業の完成を見込んでおりますので、その間におきましても、事業量に比例いたしますところの借り入れが出てくると当然考えらるる面でございます。その場合、今後とも相当



徴収成績が仮りに上らない場合にはやはり同じような意味におきまして一応要請があらうかとも考えられます。  
一番(吉田勇治郎君)その点は了解いたしました。

計算上からいきますと、まだ相当額の借り入れが必要ではないかと思ひますが、その見通しは過去大年間か、七年間ふつてきた経験からして大体おやりでしようから教えていただきたい。

農林水産課長(伊藤幸太郎君)先ほど申し上げました通り、二五%の負担のうち五%が工事費の負担でございます。その他に改良区事務費、運営費、利子を支払ひの額、そういったもの、諸雑費を含みまして各受益者に負担金を賦課してゐるわけでございます。

一番(辻田実君)私はこの議案に対してお伺ひたいのは、普通一般に金の貸し入れをする場合に保証人、債務

負担者。という場合には、金を借りるときに行なわれるもので、もう三十三年から今日まで金を返してしまつたものについて、債務行爲をうてくれ、というのは、私は初めて、そういうことを聞くわけなんですけれども、私は何か裏があるのではないかと、いう点を心配するわけでございます。と申しますのは、四十年、度開始されていく、施行の金を借りるために、今まで、数年間の金が順調に返されてない、ので、このままでは、当然、このからの金は、貸さないのだから、一つ、今の金について、市町村というものが十分処理を願ひ、このままで、やってくれば、このからの金は、多少出て、でも、このうちではないかと、いうことが、本来、中心ではないかと思われるわけです。

かわりかへるわけですか  
 そうなるうだったう。ニハが、こう  
 難行の問題について、別な議  
 題として扱われるうが本来う姿に思いますが、私う考う

え方が違っているのか。私はそれ以外に考えられない。

農林中央金庫がどういうものか知りませんが、ミラー氏あとの問題について、あとになって債務をうけていくということはないと思いますが、その点について、もう少々説明を願いたいと思います。

農林水産課長(伊藤孝太郎君) だが今うお話ー一応ごもつともだと考えます。るが、ただ今申し上げます。たとわり最終期間というものが一番早いもので五十三年でございます。借金を返します時期以前でございまして、一応さか上りまして、債務をうけて補償した。それから、今後、問題につきましても、この市町村の誠意にこたえて十分考えていきたい。こゝが公庫を考えた方でござります。

こゝにつきまして、国と県、行政課に電話いたしまして、

二の是非はつきまゝて問いたたけでございすが、  
ただ今申し上げましたような観点からいきまゝてさ  
つかえないという回答を得ましたので、提案は次で  
ございます。

一〇番(辻田実君) 先ほどからおっしゃっていることについては、  
非常に整然としておるわけでございますけれども、先  
ほども申し上げ通り、償還期間がまだきてないから、  
ということでございますけれども、私は日本の法律の  
中でもって金を貸したあとで、新しい契約が必要となる  
というような、そういう法律というのはない。  
こちらから、自主的に今までの返り、そうもないから、返  
さない場合、に私の方で払ってやりますというところ、あり  
がたい行為でありますけれども、それまでのことをここで  
する必要はあるかどうかということでございます。

題の中心は、これから金を借りるためにあるのかどうかとい  
う点をはつきりさせてもらわないと、今までのものについてと  
いうことです。問題があるように思われるので、その点だ  
け、はつきりしていただきたいと思います。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）私の方のお答えは、今申し  
上げたとおりでございますが、一応辻田さんのお話も当  
初私も考えないことはなかったわけでございます。

正直に申し上げまして、一か一かは先ほど申し上げました  
単なる民法上とか、いろいろな法律制的のやり、補償契約  
ではございませんで、先ほども申し上げましたとおり、

関係市町村が中央ダムが完成について、これだけの力を  
入す、これだけの誠意を示しておるのだという一つの大  
きな力をここで現わす意味からしても、こういう大補  
償の問題を考えてほしいということでございますので、

民法上、或いはその他法律上から割り出す場合には、私にはよくわかりません。わかりませんけれども、そういう長意味を含みまして今後、ためにも、今までの分を一緒にしまして、お願いしたいという要請でございます。て、某当局とも話し合ひまして御提案申し上げる次第でございます。

一々番（辻田実君）いろいろ努めておる点についてはわかります。一かーながら、議会というものは、法律には厳正であるべきであります。私はいろいろなところ、議会制度、そういうものを拝聴いたします。過ぎ去った過去のものを繰り上げて、議会がその問題について云々するということはあまりよくないというふうに言われておるのでございますが、それが過去のことであっても、現在の問題にさか上り、現在以降につながって

いる問題は別でございますするけれども、ただ今、おっしゃる  
けるように努力して一所懸命やっていることは事実でござ  
います。その点については、私も非常に同情もいた  
ない。何とか手をささぐってやりたいという気持は、いっ  
ぱいでございます。一か一過去りも、について償還  
期間が到達していない段階において、そういう段階  
において、債務負担行為をするということは、ただ今  
までの説明においては、納得がいかないわけでございます。  
従いまして、私はさらに続けるならば、もう少し、果とう誓  
約文書になつておらないというけれども、それら、具体的  
な根拠あるところの説明、さらに、中央土地改良の方  
の理事と締結したところ、契約書というものが、どういふも  
のか、説明してもらいたい。そういうもので見ていかないと  
こういう問題でございますから、議会が中途半端な

点において、二ういう形、債務負担行為をするというこ  
とになると、議会として、基準というものが、失なわいて  
しまふというところで憂えるわけでございます。

また、償還期間、五十二年十二月五日がきて、努力いただけ  
ども、返せないで、こらう金について、何とかして、こうとい  
うことで、それでは補助金とか、何とかで、こうといふこと  
であれば、私はわかるわけでございますけれども、償還期  
間を十年余す、過程において、二ういうことをするといふ  
ことについては、私は賛成できないわけでございます。一、議  
員という立場から、賛成同できないわけでございますので、  
意見を述べて質問にかえたいと存じます。

・三五番（松本藤太郎君）先ほど、課長さん、御説明ですと  
過まう債務について、こともさうつかえないといつておる  
けれども、当然、さうつかえないで、さう、こちがさうつかえ



ある。

實際、ことをいうと、今まで三千六百三十三万五千円というものは借りておる。となたが借りたか知りませんが、改良区かで三十三年から三十九年度まで借りておる。

今年度、千六百九十万、これを借りようとき、中金でどうしても貸してくれないという事態が、なためではないかと想像する。

そういうことになる。過去も、について、補償をすると、いうのは、それをやらなければ本年度貸さないという逆り説が出てくるように思う。その点を教えていただくたい。いま一つ、四十年年度借りたといいますと、毎年三百四十五万に、にがーという利息を払わなければならぬ。

この利息はどこで負担するの。か、すぐに返ってくる問題で、あります。で、二点を教えていただくたいと思います。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君) 今、お話しでございます。いま、実情はそうでございます。

三十九年度までにおきましては、いろいろ事情を訴えまして、市町村の補償なしで借り入れが可能であつたわけでございまして、が、どうしても、四十年度に参りますると、市町村の損失補償がなければ、返せないのだという段階に立ち至つたわけでございます。

その際に、市議員からもしろいろお話がございまして、いども、古い方も合せて、債務補償の手続きをぜひやつてほしい。四十年度分はもちろんでございますけれども、前から借りております分につきましても、合せて損失補償をぜひやつてもらわなければ、四十年度の貸し出しは困難だ、という実情でございます。

それから、利子の問題でございますが、先ほども申し上げま

いたとあり。利子元金の返還は、土地改良区が皆さんから徴収し、また賦課金でまかなっていくということでございます。

三五番（松本藤太郎君）さくわやりました。そうしますと、果實というものは、総体の二五％を、果實支出だ、二五％というふうに考えてよろしいでしょうか。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）工事費の五〇％が国費でございまして、あと二五％が、今お話のまゝ、国費でまかなってあります。あと二五％を改良区でまかなってあります。

・議長（田中祿郎君）暫時休憩いたします。

午後五時一分 休憩

午後五時十二分 再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

二三番(中村省吾君)この問題、私もさくつかみ切れないでお  
つたわけでございますが、少くわかりかたてきたわけで、  
簡単なことから質問いたしたいと思います。

いろいろ聞いて参りますと、この問題がいろいろ法律上  
の問題とか、そういうものを抜きまいて、農民にとって  
七千石から増になるとか、大へんな利益になることは  
私も想像ができません。

農民にとって生命線ともいうべきかんがい、その事業が  
なぜ負担金が集まらないかということ、私には納付  
得できない。それほど重要な有意義な事業が、その  
負担金が集まらない。その実態はどこにあるのか、  
集める方法に何かあるのか、負担金そのもの制度に欠

陥があるのか説明していただきたいと思います。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君)賦課金徴収成績が悪  
い原因というふうなお話でござりますが、これはいろいろ原  
因がもちろんあるうと思います。やはり、三十三年度から  
工事が始まりまして、準備期間もあつたわけでございまして  
にわたりまして、長期期間にわたりますと、当初は大いに  
熱意を持った仕事でもなかなか、長続きをしない面も出  
てくるような面もあるわけでございまして、期間が長  
過ぎるということにも、一つの原因があるうかと思われま  
す。

もう一つは賦課金う方法、あくまでも総代会の制度が  
ございまして、総代会で毎年賦課額を決定するわけ  
でございまして、その面が不公平はないわけでございす

が、やはり個々にわたりますると不均衡にもなります。多額によりますので、なかなか困難な面も生じてくるという面もあらうかと思ひます。

もう一つは、やはり改良区が設立さへまいな当時の問題も若干あるようにございます。といひますのは、私もよくわかつておらなかつたのでありますが、法律によりますると改良区を設定いたしますときに三分の二の同意があれば、改良区が設定さへて受益面積として認めらうて、そうしてこの仕事が始めるということがあるようにございまして、若干時期におきまして徹底を欠いた面が、このような徴収金や不調の原因にも一部あるような面もあるようにあります。

具体的にはなかなか申し上げかわますけれども、今申し上げまいなようないろいろ問題がからみまゝで長い年月

でございまいな。で、こういった不調が現実として起つてきて  
おる。それからもう一つ大事なことは毎年、我々が賦課す  
ると多額に出しておるけれども、いつ水が使えるやだとい  
うな不安といまいやうか。そういった問題も、理的には  
ある程度おているやではないかと私もは推察しておる  
わけでございます。

一かー現実の問題として、そういった実情に立ち至つて  
おりますので、今後改良区自体はもちろんでございます  
けれども、関係者というても、これは説得に努めると同時  
に成績を上げていく努力を今後ともしていかなければ  
ならぬだろうと考えております。

お答えになりますまいかどうか。

二三番（中村省吾君）　そうしますと、当初全員がこれに賛成  
したことはないので、三分の一程度は賛成して、いなかっ

ということもあるやうだということやうでございます。

そうしますと、今度市が補償して中金から借りるその段階になつても、この状況はある程度続くということとは言えるわけですね。

そうしますと、やはりある程度の市がやはり最後の段階ということも、このときには考えなければならぬということも言えるかどうか。もっと簡単に申し上げますれば、一〇％の賦課金徴収さえできておれば、全然、こういう問題はないわけでございます。それが徴収できないうから、こういう問題になる。なお分析すれば、当初から三分の二の決議があれば、受益者として認める改良区として従つて三分の一というものは納得—なかつた。現状において、いつ水がくるかわからない。不安が増大してきた。それゆゑということになってきた。従つて今後、これを



全部回収するということが困難だということかどうか。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君) 申し上げます。ただ今々お話  
うとなり、市が債務補償をいたす期日から成績が上るとい  
うことはおそらくあり得ないと思います。

ある程度、大きな努力をして上げていくことが必要であろ  
うかと考えております。でありますので、例えば、四十一年度  
におきましても、仮りに徴収成績が一応基準として示  
さしておきますところ、八五%という基準があるようにご  
ざいます。が、それ以下であった場合には、やはり四十一年度  
におきましても、特別、そういった要求が公庫からは、或  
いはあるであらうということも考えらるわけでございます  
ます。

・二三番(中村省吾君) そうしますと、その点はそれでよろしい  
としまして、そうすると、今後仮りに熊山市が補償いた

という以後において、この徴収方法、その他、P、Rの面で、市やそれに対する計画というものは、もちろんお持ちだろうと思います。また、そのことがなければ、何の意味もないと思います。この点、どういうことによって、徴収を増大していくかという点、はつきりわからないと思いますが、方法なりわかれば示していただきたい。

もう一点、最終的には、水を担保に取るようなものや、いかに聞こえる。最終的に水をどうこうということをおっしゃっておりますが、具体的にどういうことか。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）徴収方法につきましても、いろいろ改良区自体としても、骨を折っておるわけでございますが、最終的には、やはり強制執行というようなことが考えざるを得ないと思います。

ただ、現状におきましても、徴収整理班というようなものを

改良区自体が持ちまゐりて各地域ごとに徴収成績をあげるべき努力をしておるような現状でございます。

水の問題でございますけれども、これは事業にも示されておりますとおり相当額の水量があるわけでございすが、これは一口に申上げまゐりて損失補償をするかわりにその水をよこせというふうにもある意味では、つながらるわけでございますけれども、これはあくまでも農業用水としてダムでございすので、公けにはそういうことは、ちよつと言いかねる面もあるのではないかということでは、御了承願いたいと思ひます。

二三番（中村省吾君）わかりました。そういうふうにお考えにならばよろしいと思ひます。

水の使用についてあくまでもかんがひのために必要なものであつて、たとえいかなる事情であろうとも担保物

件といつてとらえることはとうていできないことだろうと思ひます。その点答弁で納得いたします。従つてそういうことは今回の最初の説明の中にあつたそのことは私としてはあまり問題にすべきではない。この自分で解釈して了解いたします。

それからこの問題はやはり徴収率の問題にかゝるわけでござりますすけれどもいかんしても館山市が補償しようが、~~補償しようが~~だれが補償しようが、館山市がいふえはいつという問題ではない。こういうことに於て農家受益者全部がせむとも必要だということとを認識してもらふしかないと思ひます。

その点十分考慮していただきたいと思います。

八番(西村真次君) ごく統括的に簡単にお尋ねいたしたいと思ひます。

先ほどから、お話をいろいろ伺っておりますが、課長さんのお話により、ますると、最終的には損失を受けけるようなことはないんだという点で非常に自信をお持ちのようでございます。

私も、そのような解釈をいたいたいわけですが、何かそのまゝ課長さんのお話を受け取って、まあ、いような不安が残っておるわけでございます。

なるほど、お話になり、また法律的に補償契約がどうかというお話がござい、たが、この契約は、いささかもさうつかえない、できると思っています。金を借りたあとでも、また弁済期を経過したあとでも、補償は、サーもさうつかえないわけでございます。

まして、これは損失確定日というものが参っていないわけですから、補償するその行為自体は、いささかもさう

つかえないと思ひますが、補償してしまつたあとの損失が  
館山市に負担がこないかどうか。この問題がもっとも重  
要であるわけであります。

損失の心配がないようなことでございまして、一か一か  
滞納の賦課金というものが、一千何百万円出ていると  
思ひます。これはもう動かせない事実でございします。  
方法がいつとか悪いという問題でなく、今日、ただいまの  
時点においてすでに一千何百万円か滞納金が出て  
おる。一かも事業は四十四年まで継続していく。まず  
まず滞納がふえるのではないかという心配は当然起  
きてこつつかえないと思ひます。

そういう点でいけばこの補償は損失の見込や額という  
ふうに解してもこつつかえないと思ひます。

二つ、ここで果たして損失はない、いい切れるかどうか。

その分だけ負担すればいいというのは、損失が出たあとで問題であつて、損失面の割り振りはない。あくまでも金額を補償しなければならぬ。

土地改良区から契約書をいただいておるといふお話でございませうが、土地改良区というのは、借り主本人でございませう。金がなくて融資をおおく本人であります。

その本人が保証人に対して決して心配はかけませんからということをそのまゝうのみに信じてらるゝかどうか。例えば果なら果が損失を生じた場合におゝう方にかたがわりして、お前の方に迷惑はかけないという契約が、あつて納得できるのでありますが、債務者も契約でこれを了解できるかどうか。

こゝいうふうにお話を伺つておきますと、いろいろ疑問があるわけであつて、それだけに損失を或いはこゝむ

りは、ないかというに配が特に強くなってくるわけであり  
ますが、ここでもぜひお考えいただきたいと思っております。  
とは、この損失がもし生じた場合にどんな方法があるか  
館山市に実際に損失をかけないためにどんな方法がある  
か、こういう点につきまゝでは、もう少し慎重なお考えが  
ほしいと思うわけがあります。

この点について、ちやうとお話をいただきたいと思います。

。農林水産課長（伊藤幸太郎君）お話しごもっともでございます。  
先ほども申し上げました改良区から市に対しますところ  
の誓約書的なものを一応いただきまゝ、理由はやはり  
この仕事に、この際やっていたかたければ、この先どう  
しても進めないのだ、急激に追いつめられておるのだから  
我々の責任においても、ごめいわくをおかけいたしません  
ということ、私どもとしては、一応誓約書をお願いい



たいたいわけでございます。

もう一つは、渠云々のお話でございますけれども、これは私も  
ちっとわかりかねるんですけれども、やはり先ほども申し  
上げましたとおり、一応の議決をいたしまして、あかつき  
には、農林漁業金融公庫と補償契約を取り結ぶわ  
けでございます。でありますので、契約を結ぶ前にい  
ろいろお話のありましたような面につきましても、十二分に  
渠と折衝いたしまして、できるだけのことをいたしたい。  
その上で、金融公庫と館山市の補償契約を結んで  
いきたい。そういうふうに考えておるわけでございます。

・八番(西村真次君)中央ダムというかんがい用に利用価値  
のあることでございますので、最終的には賛成をい  
たすものであります。が、何分にもまだ今申し上げま  
したような危険負担をしておるわけですね。補償すると

いうこと自体が危険負担をするわけですから。その点十分に頭に入って今後、行動に進んでいただきたいということを要望いたしまして、以上で終了します。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）御質疑なしと認めます。

議案第八十八号は討論省略原案通り可決いたします  
ことに御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって議案  
第八十八号は原案通り可決さした。

おはかりいたします。

以上を持ちまして本定例会に付議された議事案件は  
すべて議了いたしました。よって本日をもって第四回市  
議会定例会を開会いたしますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よって定例会はこゝにて閉会と決まりました。

午後五時三十一分 閉会



本日の会議に付く事件

一 議事日程に加えて

議案第八十八号

出席議員

吉田	勇治郎	鈴木	正一郎
小柴	孝	館石	伝蔵
田中	祿郎	秋山	大三郎
田村	源治郎	望月	照正
安西	益男	辻田	実
石井	正	菊井	敏博
志村	信作	小沢	恵太郎
関	武夫	西村	真次
藤田	好治	保科	忠夫

江田 徳太郎

君塚喜三

中村 省吾

島野 茂樹郎

萩生田 七郎

嶋田 繁

山田 教宇

鈴木 市蔵

安藤 亀吉

安沢 徳順

三沢 節

高橋 文治

山本 昇

松本 藤太郎

山口 康

欠席議員

黒川 佐太郎

出席説明者

一 第一日目 目録に同じ

出席事務局取員

一 第一日目 目録に同じ

昭和四十年十二月十七日

右会議の次第を録しここに署名す。

館山市議会議長

田中 祿郎

同、署名議員

岩崎 赤子

同

山口 康

